

エルゼメキアのヒー
ローアカデミア

冬川冬樹

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

エルゼ来るぜ、エルゼメーカーアー

エルゼはヒロアカの世界も侵略しちゃう、ぞ！

なんてことはなく、エルゼメキアもといエルゼの力を使いヒーローを目指す物語。感想書いてくれるとモチベ上がります。

目次

人物設定 番外編

人物設定

1

雄英入学 USJ編

未知との遭遇

7

体力テスト!

17

戦闘訓練その1

24

戦闘訓練その2

32

委員長決め ～飛べよ飯田くん～

40

レスキュースピーシー

～悪意と

の直面～

50

バトル in USJ

～少女はヒー

ローになれるか～

58

逆転少女

～mission

脳無を

討伐せよ～

69

体育祭編

ステンバイ

～そこから先は地獄だぞ

～

77

宣戦布告

～ならば答えはひとつ～

障害物競走

～アクション～

83

騎馬戦

～頼もしい仲間～

99

休憩時間

～轟くん家の家庭事情～

109

第一回戦

～オーバースピードと宇宙

125 第二回戦 くヒーロー対魔法少女く

準決勝 く心の炎を燃やせく

135

人物設定 番外編

人物設定

設定のない所は物語が進む事に更新していきます。

天海ノエル

身長149cm 体重 ピーリーグ

誕生日 2月14日

見た目 Y学園の天海エルナと同じ、淡い先端のピンクメッシュが所々水色になっている。これはエルゼの故郷のコーリーをイメージしたもの。

スリーサイズ 後で原作みて設定

個性 エルゼ(unknown)

Y学園登場キャラのエルゼメキア、コーリー星の女王エルゼが身体の中にいる。それにより、浮いたりビーム出したり手を巨大化させるなど規格外の事が出来る。皆にはエルゼの存在がバレたくないなのでunknownという事になっている。

ちなみにここだけの話、個性を強化しまくれば、変身出来る。

ヒーロー名 未設定

使える技

プリチャービーム

世間とかで言ういわゆるデス◯ーム。ピンク色のビームを指から出す。威力は入試のロボットの装甲を貫く。

ハートビッド

ノエルの意志を読み取り、自動で対象にビームを出してくれるファン◯ル。オールマイトのTexas smashにぶつ飛ばされる。威力はプリチャービームと同等か少し上。ノエルオリジナルの技。

ラプリープリチャー玉

エルゼメキアが使っていた技。特大のハート型の質量物質を相手に投げればたちまち相手は爆散。エルゼ所有の技。ちなみにほかの技にエネルギーとして応用も出来る。

潰しちやうぞハンド

腕を大きくする技。単純に強い。これで殴れば強い。威力は、本編読めば御察し。エルゼメキアが使っていた技。

ミカエルズハンマー

潰しちやうぞハンドで大きくした腕で対象を全力で殴る技。オールマイトのDetroit smashを耐えるという実績持ちなので威力はお墨付き。ノエルオリジナル

ナルの技。

デリートフイスト

ミカエルズハンマーにラブリープリチャー玉のエネルギーを上乗せした技。オールマイトのTexas smashと同等の威力。ちなみにエネルギーだけ分離させる事も出来るので、エグゼイドの「gekittoutu critical strike」みたいな事も出来る。ノエルオリジナルの技。

ここからはネタバレの技も含まます！それでもいい方は進んでダメな方は最後まで飛ばしてね！

ミラクルプリズマー

侵略魔少女エルゼメキアに『コスチュームチェンジ』する技。USJ中盤までのノエ

ルは使えないが、初回は『エルゼ』が使う。変身する時の決めゼリフ的なものでもある。技と言っているのか。

シスターローラー

エルゼメキアの持っている杖を使った攻撃力と殺意マシマシな技。

杖の中の浮いている星を回転させてなんでも切り裂く。

名前はシスターの所は4つの星、「フォースター」↓「ヨンスター」↓「シスター」つて感じ。死の星とも読む。感じにしたら『死星輪』かな？

ノエルオリジナルの技。

ハートレスティアーズ

体育祭で使った技

極太の横線を周囲に出して周りを消し飛ばす。

技の名前は星のカー〇イから。

ハートフルティアーズ

体育祭で使った技

極太のビームを出す。

これも星のカー〇イから。

マゼラルアイ

体育祭騎馬戦で使った技。

目にエネルギーを集中する事で周りの動きが遅く見える。

とても便利だがかなりエネルギーを消費する。

ハートバスターオルタ

体育祭のレクリエーションで使った技。

ラファエルリベレイト400発分の威力。峰田を消し飛ばした。

ハートフルバスターシディア

体育祭第二回戦で霧隠ランガに対して使った技。

目の形をした魔法陣から極太の光線を放つ。

名前はデュエマのオ○・シディアから思いついた。

ゾディアックスピア

ゾディアライアが使う技。コーリーの力とエルゼメキアの力ふたつを合わせ、赤い結晶で槍を形づくり、相手に向かって投げる技。威力は絶大。

ラント君の彗星ランスににてるかも。エルゼメキア、ゾディアライアの技。

エルゼシヤドウ

ゾディアライアが自分の髪に分身を繋ぐ技。分身それぞれが意志を持つ。自立施行型である。強い。

ゾディアックノヴァ

赤い結晶で作った繭に籠り、大爆発する技。赤い結晶も物凄い勢いで飛んでくるので殺傷性マシマシ。巻き込む範囲は半径20m。ノエルオリジナルの技。作中トップクラスの攻撃力を持っている。

技は随時追加していきます。出ないものとか考案中のものもあるのでリクエストも待っています。

雄英入学 USJ編

未知との遭遇

エルゼ「私の本当の名前は…エルゼ、エルゼメキアではなくコーリーの女王、エルゼよ。」

ラント「…分かった。」

エルゼ「さあ、最後の決戦よ。私にとって、貴方にとって…」

くくく

「…またこの夢だ。」

最近よくこの夢を見る。どこかの国の王女様と、一人の男の子の夢。

この夢は、私になにか関係あるのかな…。

「いけないいけない。今日は雄英高校の入試の日なんだから。しっかりしないと。」

…

取り敢えず筆記はどうかあったけど、さすがに難しかった。

でもまだ実技が残ってる。

思えば無個性でよくここまで頑張ったもんだな私。

中二の春休みからずっと準備してきて体力とかもつけて受かるために頑張ったけど

…

…周りが強そうな人しかないない。

これ、終わつたくな？

『ふふ、そこで諦めてしまうの？』

ん？今声が聞こえた気が…

気のせいか。

『気のせいじゃありませんよ？』

えっ

どっから声が

『まあ、貴方の中から？ですかね。』

じゃあこれって、某もう一人の僕ウ！的な？

『いや違いますよ？貴方の言うそれとは全く別のものです。』

え、なら何なの？

『私はエルゼ。コーリーの星の女王、エルゼよ。天海ノエルちゃん。』

ノエル「え、なんで私の名前を…」

エルゼ『ずっと、貴方を見ていました。』

エルゼ『小さな頃から魔法少女とかプリ〇ユアを見ていた貴方はずっと個性というものに憧れてた。でも検査では貴方は無個性と判断されてしまった。でも、機械でも私の存在は見つけられなかったみたいね。だから、ずっと貴方の中に私が居てもバレなかった。そしてタイミングを見計らっていた。貴方の助けになる時を。それが今だということよ。』

ノエル「じゃあ、貴方は私の個性みたいなもの？」

エルゼ『皆から見たらそうなんだろうけど、私も元々は生きてたのよね。こことは別の世界で。』

ノエル「ど、どういう事？」

エルゼ『私がいた世界では特殊な時計を使って変身して地球の危機と戦っていた。そこで私は命を落としてある人に全てを託し消えたはず。だけど貴方の中に憑依？したのかしら。』

ノエル「し、信じられない話だけど…、貴方と話せているということは本当なんだろうけど。」

エルゼ『…で、私の力、使いたい？』

ノエル「…私に出来るかな。」

エルゼ『まずは、やって見ることも大切よ?』

ノエル「…分かった!よろしくね!」

エルゼ『なら、移動しながら説明しましょうか。』

こうして私は、エルゼと運命的な出会いをした。

∴

ノエル「な、なるほど。色々出来るね。」

エルゼ『まあ、私の力はその地球外の超生命体マゼラから借りてる力だから当然とて

つもない力だけ!今の貴方じゃ完全には扱えないから少しづつ、つてとこかしら。』

ノエル「…ふふっ。」

エルゼ『…?どうしたの?』

ノエル「いや、借り物の力だとしても自分に力があるって分かって嬉しくて。」

エルゼ『…ここからよ。』

ノエル「うん!」

∴

こうして実技の説明を受けた私達は会場に向かった。

マイク『はいスタートオ!』

ノエル「あつ」

エルゼ『よし、行きましよう！』

ノエル「うん！」

タタタタッ

ロボ《侵入者ハツケン！ブッコロス！》

ノエル「いや物騒！」

エルゼ『さあノエル、今こそ私の力を！』

ノエル「うん！」

その瞬間、ノエルの指からビームが出てロボットの身体を貫いた。

ノエル「これって、デ○ビーム？」

エルゼ『違いますよ？言うなればプリチービームです。』

ノエル「よし、突っ込まないでおこつと。」

『ブッコロス！』

『ブッコロス！』

『ヌッコロス！』

『オレハキサマヲムッコロス！』

ノエル「ロボが物騒過ぎるな。」

エルゼ『数が多いですね。こんな時はこれを！』

ノエル「なるほど、分かった！」

ノエルが腕を天に上げると、ハート型のエネルギーが集まり大きくなる。

ノエル「これって、デ○ボール？それとも元○玉？」

エルゼ『ちゃんと名前あるからね？』

『さあ、いきますよー！』

二人『ラブリープリチー玉ー！』

ドゴオオオオン！

ノエル「威力やばあ…」

エルゼ『まあ、今の貴方じゃ一回が限界だけどね。』

ノエル「でも、これでかなり稼いだ！」

エルゼ『さあ、どんどんいきましよう！』

ノエル「うん！」

∴

エルゼ『かなり稼ぎましたね…。』

ノエル「うん…、30体くらいかな？」

エルゼ『頑張りましたね。残り時間も少ないから残りはゆっくりいきましよう。』

ノエル「うん、そうだ…」

ドガアアン！

二人「『!?』」

地面から巨大口ボが出てくる。その高さは建物の高さを優に超している。

ノエル「デカイ！説明不要！顔のデカさ2 m 4 0 c m！」（某剣持風）

エルゼ『こんな時でも貴方は…』

ノエル「まあ、そうも言つてらんないな。」

エルゼ『ラブリープリチャー玉はもう撃てないからここは逃げましょう。』

ノエル「むむ…」

「誰か…」

ノエル「っ！」

その時、ノエル達の近くに逃げ遅れた受験生が1人居た。

ノエルは駆け出していた。

エルゼ『ノエル!?』

ノエル「あの子を助ける！」

エルゼ『何する気?』

ノエル「あの子助けた後にもう一発あれ撃つ！」

エルゼ『ラブリープリチャー玉は今は一発が限界って言ったはずよ！それ以上は貴方が

…
』

ノエル「手が届くなら私は助ける！」

エルゼ『全く…、貴方も面白いのね。元いた世界の者達と似てる。』

『分かった、やりなさい！』

ノエル「よしっ！」

…

ノエル「大丈夫？」 タタツ

受験生「はい…」

ノエル「ほら、逃げて。」

受験生「ありがとうございます…」 タタタツ

ノエル「さーて、いくよ！エルゼ！」

エルゼ『ええ！』

ノエルは跳んだ。エルゼの力もあってか、ロボットの頭上まで跳んだ。

ノエル「はあああああ！」 ヒイヒイ

エルゼ『いい？今ラブリープリチャー玉を撃つたら、終わった後貴方はそのまま落ちる。

それでもやるのね？』

ノエル「うん、覚悟は出来てる！」

エルゼ『なら、私も協力は惜しまないわ!』

ノエルの腕には、さつき撃った時よりもさらに大きいサイズのハート型のエネルギーギアが集まっている。

ノエル「くらえ!」

まさに、

ノエル「さらに向こうへ! Plus ultra!!」

二人『ラプリープリチャー玉あ!!』

ドゴオオオオン!

巨大ロボは脚の部分少しを残して消し飛んだ。

ノエル「あ、やばい落ちる。」ヒュー

エルゼ『ふう、仕方ないですね。』キィイ

ノエル「あ、あれ? 浮いてる…」フワフワ

エルゼ『私の力を使って浮かせたの。そのまま落ちたら危ないから。』

ノエル「そっか、ありがとう。」

エルゼ『ふふ、さあ、帰りましょうか。』

ノエル「そうだね。」

こうして、私の入試試験は幕を閉じた。

新しい、頼もしい仲間のエルゼと共に。

体力テスト！

（天海家）

結果が帰ってきたので開封した。

結果は全体三位で合計ポイント88ポイントの文句なしの合格。

やったね。

そして時は流れ…

雄英入学当日

ノエル「やっぱデカイな。」

エルゼ『このくらいなら私の世界にいた学校も負けてませんよ。』

ノエル「まじか。」

ノエル「え〜つと、A組A組…」

エルゼ『あ、あつた。』

ノエル「どんな人がいるかな〜？」

ガラガラ

ドアを開けると、そこには数人のクラスメイトがいた。

ノエル「4番4番…、あった。」トコトコ((((((つ*・ω・)つ
席に座る。

ノエル(暇だし曲でも聴いてよ)

エルゼ『あ、それだったら私のオススメがスマホに入ってるよ。』

ノエル(おっ、じゃあそれ聴こつと。)ピッ

《〜♪》

ノエル(ん?徐々にテンポアップする曲か…)

エルゼ『ここからだよ。』

《エルゼ来るぜ〜、エールゼメ〜キ〜ア〜》

ノエル(っ!?!まってエルゼメキアって…)

エルゼ『…てへっ♪』

《侵略しちやうぞ地球ごと、イエー!》

ノエル(歌詞が物騒!)

《胸に秘める、お〜もいは〜♪愛を愛するアイドル♪》<アイドル!>

エルゼ『アイドル!』

ノエル(ノリノリじゃん)

こうして先生が来るまでずっとこの『侵略魔少女エルゼメキア』を聴いていた。

歌詞覚えちゃったよ

：

まさか来た直後に体力テストやるとか予測出来るわけないじゃん。

く更衣室く

ノエル「憂鬱だア…」

麗日「そうだよね…、急にテストなんて。」

ノエル「あの先生何を考えてるんだ…、本当なら入学式出てるはずでしょ。」

麗日「あ、私は麗日お茶子！よろしくね。」

ノエル「天海ノエルです。こちらこそよろしく。」

この後着替えつつ他の女子達と沢山話した。皆やさちー！

：

この後、更衣室から出た後、私達の担任の相澤先生が入試トップの爆豪くんにボールを投げさせてトップとの実力の差を思い知らされました。

ノエル（700mとか、さすががトップだわ）

エルゼ『まあ私のフルパワーなら余裕で超えちゃうけど』

ノエル（し　っ　て　た）

そして誰かが「面白そう！」と言った瞬間に相澤先生の雰囲気が変わり、ビリは除籍

と言いだめたでは無いか!

ノエル(やりすぎじゃ)

エルゼ『弱いやつはいらない、って事かな…』

よし、除籍にならないように頑張らないと。

ここからはダイジエストでお送りします。(作者がめんどくさいので)

50m走

ノエル(やつば飛ぶの楽チンだね。)ヒュー

エルゼ『スピードもあるから平均以上はいくかな。』

4. 12秒

ノエル(うん、丁度いいかな)

立ち幅跳び

ノエル「:」フワフワ

相澤「天海、それいつまで続く?」

ノエル「力が続く限りは」

相澤「無限」

皆「「ええー!?!無限!?!」

反復横跳び

あんまり力使うアレじゃないから体力強化して普通にやったら100回ピッタリ
 だった

長座体前屈

ノエル「……」
 ・ω・
 ペタッ

75cm

握力

エルゼ『ノエル、私の力って腕大きくする事も出来るからやってみて。』

ノエル「よーし……」グオツ

皆「「えっ」」

エルゼ『潰しちゃうぞハンドー！』

ノエル「これで測定器持つてと……」

グググ

バキッ

二人『「あっ」』

相澤「……測定不能」

皆「「ええー!?!」」

ボール投げ

なんか投げる前に緑谷くんと爆豪くんで騒動あつたけど収まってよかたよかた。

ノエル「取り敢えず普通に投げよ。」グオツ

ヒューー

相澤「120m」カチツ

エルゼ『まあまあだあね』

ノエル（さて、2回目どうしよっかな）

相澤「おい、天海。」

ノエル「あ、はい。」

相澤「1回目本気出してなかつただろ。」

ノエル「様子見してたので」

相澤「次はしっかり本気で投げろ、出ないと除籍だからな」

エルゼ『なんという脅迫』

ノエル「分かりましたー」

二人『さーて、やりますか。』

まず腕大きくして身体強化で足と腕を重点的に強化してと。

次にラブリープリーチャー玉のエネルギーをボールに込めて。

思いつき振りかぶって、ぶちかます!

ノエル「せいっ！」ブオン
キイー

相澤「1930m」カチツ

皆「…:すごっ」

持久走

ロボ《ヨイー、スタート》ピッ

ノエル（エルゼ来るぜ、エルゼメくきくアく♪）キイー

結局5位だった。皆ハエーイ！

ケツカハツピヨオー！

私また3位くらいかなって思ったら総合2位だった。やったね。

1位は八百万さんだった。さすが推薦。

最下位の除籍は嘘だと相澤先生は言ってたけど、あの目はマジだった。

エルゼ『最下位の緑谷くんが見所ありと判断されたってことだろうね。』

ノエル（よーし、明日も頑張ろつと。）

戦闘訓練その1

次の日…

午前にプレゼントマイク先生達プロヒーローによる普通の授業を受け、午後。

マイト「わあーたあーしいーがあー！」

「普通にドアから来た！」

オールマイトによるヒーロー基礎学である。

「オールマイトだ！」「すげえ、本物！」「あれシルバーエイジ時代のコスチュームだね。」

ノエル（実際に見るとあの人だけ画風が違うよね）

エルゼ『異世界からきたのでしょうか？』

ノエル（エルゼやないかい）

マイト「という事でこの時間、私が担当するのはヒーロー基礎学！ヒーローの素地を作るため、様々な訓練を行う科目だ。単位数も最も多いぞ！」

ノエル（さすがヒーロー育成最高峰。NO.1ぶち込んでくるとは。）

マイト「早速だが！今日はこれ！戦闘訓練！」

オールマイトが『戦闘訓練』と書かれた紙を出す。

エルゼ『初手戦闘訓練って、大丈夫なの？』

マイト「そしてそれに伴って：こちら！」

オールマイトが壁に指を向けると、番号が書かれたケースが出てくる。

マイト「入学前に送って貰った個性届けと、要望に添って作られた戦闘服（コスチューム）！」

「おおおお！」

：私のコスだけ場違いにならない事を祈る。

マイト「着替えたら順次、グラント・βに集まるんだ」

「はーい！」

：

葉隠「あれ？ノエルちゃんは制服？」

ノエル「あーうん、雄英のとは違うけどね。」

麗日「でも、この格好のノエルちゃんも可愛いやん！」

私が来ているのはエルゼの元いた世界の《Y学園》という学校の制服をベースにしたコスチュームだ。

エルゼ曰く、『Y学園の制服は普通にイカしてるので』との事。

種類があるらしいが私が来ているのはエルゼが来ていたものだ。

もちろん色々な耐性付けたけど。

エルゼ『この格好で動くこと多かったからなあ…』

芦戸「ずっと気になってたけどノエルの個性って何？」

やばい説明考えてなかった。

耳郎「確かに浮いたり腕大きくしたり…、なんでも出来るよね。」

麗日「私最初見た時私の個性って何なん？ってなった…」

エルゼどうしようどう説明しよう（；・ω・）

エルゼ『とりあえず私が言った事を言っておいて下さい。（；・▽・）』

ノエル（了解！）

八百万「天海さん？大丈夫ですか？」

ノエル「ああうん、大丈夫。個性の話だったね。」

「私の個性は…、《unknown》だよ。」

「「あ、アンノウン？」」「キョトン」

ノエル「そ、不明とか未確認とかそんな感じ。よくある宇宙とかにいる地球外生命体とか、そういう力。だからunknown。」

蛙水「ケロ、だから浮いたりデカくなったり出来るのね。」

ノエル「そゆこと。」

皆「「なるほど。」」

ふう、納得して貰えた。

ノエル（エルゼ、助かった。）

エルゼ『いつか聞かれるとは思ってたけど、こんな早いとは…』

ノエル（私はテストの時点で聞かれるかと思ってたよ。）

私達は最大の危機を乗り越えた、気がする。

：

マイト「格好から入るってのも大事なことだぜ、少年少女！自覚するのだ…今日自分はヒーローなんだと！」

クラス全員グラウンドに集まり、皆のコスチュームと私のと比べただけ…

ノエル（やっぱり私だけ場違いだよな？）

マイト「良いじゃないか皆！カッコいいぜ！さあ始めようか、有精卵ども！」

エルゼ『私達にかっこいい求められても…』

麗日「あつ！デク君？カッコいいね！地に足がついた感じ！」

出久「あ、麗日さっ!？」

麗日「要望にちゃんと書けば良かったよ…パツパツスーツになった…恥ずかしい…」

確かに麗日さん言ってたなあ…

マイト「さあ、戦闘訓練のお時間だ！」

飯田「先生！」

説明しようとする先生1人手を上げる。

飯田君だったんだ…メカメカしいな。

飯田「ここは入試の演習場ですが、また市街地演習を行うんでしょうか？」

マイト「いいや、もう2歩先に踏み込む！ヴィラン退治は主に屋外で見られるが、統計で言えば屋内の方が凶悪ヴィラン出現率が高いんだ。監禁、軟禁、裏商売このヒーロー飽和社会おっほん！真のさかしいヴィランは闇に潜む…君らにはこれからヴィラン組とヒーロー組に分かれて2体2の屋内戦をして貰う！」

飯田「基礎訓練無しに？」

マイト「その基礎を知るための実戦だ！ただ今回はぶっ壊せばOKのロボットじゃないのがミソだ！」

「勝敗のシステムはどうなります？」

「ぶっ飛ばしていいんすか…？」

「また相澤先生みたいな除籍とかあるんですか？」

「分かれるとはどの様な分かれかたをすればよろしいでしょうか？」

「このマントやばくない?」

ノエル「私だけ場違い感やばくないですか?」

エルゼ『(´・ω・´) ブフオwww』

マイト「んんん! 聖徳太子いー!...いや最後のは何だ!?!」

私だア。

マイト「いいか? 状況設定はヴィランがアジトの何処かに核兵器を隠していて、ヒーローは処理しようとしている。ヒーローは時間内にヴィランを捕まえるか、核兵器を回収する事。ヴィランは時間まで核兵器を守るか、ヒーローを捕まえること」

エルゼ『凄い紙見てるし...』

マイト「コンビ及び対戦相手はくじだ!」

ノエル「先生、このクラス21人だから1人はぶらレンゲルするんですが。」

マイト「うむ! それについても対応しているか... はぶらレンゲル?」

皆が順番にクジを引いていく。あ、ちなみに引く順番はランダムです。

A チーム 緑谷・麗日

B チーム 轟・障子

C チーム 八百万・峰田

D チーム 爆豪・飯田

Eチーム 青山・芦戸

Fチーム 砂藤・口田

Gチーム 上鳴・耳郎

Hチーム 常闇・蛙吹

Iチーム 尾白・葉隠

Jチーム 切島・瀬呂

はぶらレンゲル ノエル

はいハブられた〜。

ノエル「マイト先生〜、私はぶらレンゲルしました〜。」

マイト「うむ、天海少女か。君は一人でやってもらおう。」

ノエル「…ちなみに相手は？」

マイト「私だ。」

二人「『…敗北者じゃけえ。』」

次回、ノエル死す！ヘルエスタンバイ！

戦闘訓練その2

ノエル「…憂鬱だあ。」

尾白「あ、天海。凄く気が落ちてるが大丈夫か？」

ノエル「だってオールマイトとタイマンだよ？勝てるわけないよオ。」

葉隠「いやでも！もしかしたらワンチャン」「ないよ。」「はい。」

障子「そんなに気を落とさずとも、今自分の出来る最大限をオールマイトにぶつけられたいんじゃないか？」

ノエル「そのつもりだけど、技の中にエグいやつあるんだよなあ…。ま、オールマイトだから耐えられるか。」

エルゼ『NO. 1だからね、大丈夫だね。』

…

皆の戦闘訓練が終わり、いよいよ私の番だ。

マイト「さて、次は私達だな！」

ノエル「はい…」

エルゼ『既に負けが決まったかのような…』

マイト「では八百万少女！私達が位置に付いたら開始の合図を頼むぞ！」
八百万「分かりましたわ。」

マイト「では行こう！」

ノエル「はい。（行きたくない！生きたい！）」

エルゼ『もう無理だあ…』

ちなみに私達がヒーロー、オールマイトが敵役です。まじ死んだくね？

：

耳郎「天海、大丈夫かな…。」

麗日「だ、大丈夫だよ！テストの時も凄かったし！」

切島「でもあのオールマイトだぜ？通用するか？」

峰田「俺は天海を応援するぜえ！」

ノエル「さーて、死ぬか。」

エルゼ『あんな事は言ったけど、なんとか頑張るしかないね。』

ノエル「まあ、当たって砕けるか。」

エルゼ『砕けたら元も子もないのよ。』

八百万『両者位置に着きましたね？それでは、』

『スタートですわ!』プアーン

ノエル「さて、行くか。」

…

一階、二階、三階には居らず、残りは四階を調べるのみだった。

エルゼ『オールマイト本当にいるよね?』

そのはずなんだけどなあ…。

マイト「ぬうん!」ドガアン!

二人『っ!?!』

オールマイトが壁から出てきた!?

マイト「さお、来たな天海少女! 精一杯戦おうじゃないか!」

でも、核に触れさえすればこちらの勝ちなので。

エルゼ『いなしつつ、核に向かい、タッチ。これでいきますか?』

そうだね。

ノエル「勝てるとは思ってないけど、ヒーロー役なのでなるべく諦めずいきますよ!」

フオン!

エルゼ『先手必勝!』

二人『ハートビット!』ブオンブオン

小さなハート型の質量物質が出てきた。これは私の意志を読み取り、対象に向かいビームを撃つてくれる私が生み出した技。今は最大4つしか出せないけどね。ちなみにこのまま私も動くことも出来るから万能に動ける！

ノエル「はあっ！」グググ

マイト「おお、面白いな！」ヒュン

ドガガガガガ

オールマイトはビームを避けつつノエルとの近接戦闘を難なくやっていた。

エルゼ『やはり化け物ですね。』

マイト「ははは、その程度か天海少女！」ドツ

ノエル「ぐっ！」ドガアン！

ガードの形はとつたものの壁に吹っ飛ばされてしまう。

ノエル「まだまだ！」ブオンブオン

ハートビットをオールマイトに向けて飛ばす。

マイト「Texas smash！」バアン！

ハートビットが消えてしまう。

エルゼ『これは、マズイですね。』

さーて、どうしようか。核があるからラブリープリチャー玉は撃てないし…。

…ん？

核がない方向に撃てばいいんじゃない？

エルゼ『それだ！』

そうと決まればさっそく！

…

ノエル「潰しちゃうぞハンドゥ！」グオツ

とりあえず殴って時間稼ぎと位置をズラしたい！後30cmズレてくれ！

マイト「ほう！望むところだ！」

「Detroit smash！」グオツ

ドガアアアン！

ノエル「ガツ！」ズザザザ

マイト「ぬっ！」ザザザ

よし！アレだけズレればいける！

エルゼ『いくよ！』

マイト「まさか、入試のアレを！」

ノエル「ご名答！その位置なら核にも被害はない！」

ノエル「ラブリープリチー玉あ！」バツ

エルゼ『今の内に核を！』

了解！

マイト「素晴らしい、って言ってる場合じゃないな！核に向かわなければ！」ダツシユ

！

ノエル「あれか！」

エルゼ『触れれば勝ち！』

マイト「やらせないぞ天海少女！」ドガアン！

オールマイトが地面を突き破り出てきた。化け物か。

ノエル「こうなったら……！」

エルゼ『ええ！』

二人『真っ向からぶつかる！』

ビュン！

マイト「かかってこい！」

「Texas smash！」

ミカエルズハンマーの形をとってラブリープリチャー玉のエネルギーを拳に全て込める。

二人『デリート！フィストオオオオ！』グオオツ

ドガアアアン!

マイト「ぬおおおおお！」グググ

二人「『…』」グググ

『『今だ!』』スッ

マイト「何イ!?!」

二人はデリートフィストのエネルギーだけを残して核にタッチした。

ノエル「回収!」

八百万『そ、そこまで!天海さんの勝ちですわ!』

なんだかんだ、頑張ったら勝っちゃった!

委員長決め　　～飛ばよ飯田くん～

オールマイイトとのタイマン戦闘訓練は見事私とエルゼの勝利に終わった。

しかし、オールマイイトは絶対に本気じゃなかった。絶対に三割以下の力なはずだ。自分はまだまだだと痛感させられる。

皆からはとんでもなく賞賛を受けたが、あの人が本気出せば今の私達なんて一撃だろう。

家に帰って：

ノエル「エルゼ、このままじゃダメだ。」

エルゼ『うん、私もそう思ってた。だからこそ強くないと。』

エルゼ『という事でトレーニングアイテム作ったからそれ付けて生活してね。』

ノエル「…はい？」

準備が良すぎである。

：

エルゼが用意したのは、一つ5kgの重り、それを両手両足につけ、さらにチェストウエイト？的なやつ（10kg）も付けて

合計30kgである。

ノエル（これ、私の全体重とほぼ同じくらいあるじゃん。）

エルゼ『ちなみに慣れてきたら増やしてくからね！』

ノエル「エルゼ、加減って知ってる？」

エルゼ『まあ、日常生活つけてるだけで、今日みたいな戦闘訓練とか実践形式な時は外していいから』

ノエル「そりゃあ外さないと死にかけるよ」

エルゼ『つてことで、取り敢えずはそれで頑張つて！また明日もう一つアイテムあるから楽しみにしててね！』

こりゃあ私死にかけるかもな。

∴

芦戸「ええ!?!ノエル大丈夫!?!」

ノエル「ああうん、全然大丈夫…。」ミシミシ

皆「ミシミシいってるけど!?!」

ホント、この身体のせいで朝のマスコミ避けるの大変すぎた…。

エルゼ『あれは仕方ない。』

相澤「おはよう、席につけ。」

皆「「おはようございます!」「」 シュバツ

相澤「おはよう諸君。Vと成績見させてもらった。まず爆豪。もうガキみたいな真似すんな。能力あるんだから」

爆豪「……………わかつてる」

相澤「で、緑谷はまた腕ブツ壊して一件落着か」

出久「!」ビクツ

相澤「個性の制御…いつまでも「出来ないから仕方ない」じゃ通させねえぞ。俺は同じ事言うの嫌いだ。それ…さえクリアすればやれることは多い。焦れよ緑谷」

出久「…はい!」

相澤「そして天海」

天海「はい。」

相澤「オールマイトとの戦闘訓練ご苦労だった。オールマイトに勝ったからと言って調子に乗るなよ。調子乗ったやつはすぐに終わる。」

天海「オールマイトが本気じゃない事くらい分かってますよ。あれは勝ったとも言えませんし。」

相澤「分かっているならよし。さてHRの本題だ…急で悪いが今日は君らに…学級委員長を決めてもらう」

「『学校つぼいの来たー!!』」

「委員長!! やりたいですソレ俺!!」

「オイラのマニフェストは女子全員膝上30cm!!」

「ボクの為にあるヤツ☆」

「リーダー!! やるやるー!!」

「ウチもやりたいス」

「やろせろ!!」

ノエル「皆必死すぎ…」グググ

エルゼ『ノエルは腕すら上げられないw』

元はと言えばエルゼさんのせいですけど？

飯田「静粛にしたまえ!!」

飯田の声が響いた。

「『!』」

飯田「『多』をけん引する責任重大な仕事だぞ…! 『やりたい者』がやれるモノではないだろう!! 周囲からの信頼あってこそ務まる聖務…! 民主主義に則り真のリーダーを皆で決めるといふのなら……これは投票で決めるべき事案!!」パーン!

ノエル「飯田くん、じゃあその直立してる腕は？」

そう、飯田の手は誰よりも聳え立っていた。

飯田「ハッ!!」

蛙吹「日も浅いのに信頼もクソもないわ、飯田ちゃん。」

飯田「……………言われてみればたしかに」

ノエル「つて事で私委員長やりたかあらへんので一時的に仕切らせて頂きます。皆委員長やりたい意思があるという事で、投票で決めさせていただきます。先生よろしいですか？」スタスタ

相澤「決まればなんでもいいよ。」ジツ

相澤先生もう寝ようとしてるやん。

エルゼ『というか30kgつけてさつき動くのも辛かったのになんでそんなスタスタと』

ノエル（意地と気合いと我慢。）

エルゼ『流石だわ。』

私誰に投票しよっかな。

：

結果

緑谷くん 3票

八百万さん 3票

その他全員 1票

うん、皆やりたすぎね。

ノエル「じゃあ、二人じゃんけんしようか。」

結果、緑谷くんが勝ち、緑谷くんが委員長、八百万さんが副委員長になった。

よし、役目終わった。疲れた。

：

ノエル「すみませーん、カニカマサラダと鯖定食ください。後爽健○茶！」

ランチ「はいよー！」

お昼ご飯を受け取り、席に座る。

ノエル「いただきます。」パン（八・ω・）

鯖をまず一口。

うっ、美味しい!?

丁度いい脂の乗りに、醤油のしよっぱさがベストマッチ!

さらにその鯖を白飯に乗せて一緒に口にイン!

ああ、生を実感するわあ。。。

何気に爽健○茶も口のリセット要員になっていて、また鯖の味を楽しめる。

素晴らしいですわ。

ほんとにこれが学食でいいのかと疑いたくなる。これ三ツ星取れるやろ。

エルゼ『流石ランチクック。美味しい。』（・く・）ムグムグ

ちなみにエルゼも私の食べたものと同じものを食べれる。とても美味しそうに食べてる。

：

ノエル「ご馳走様あ…」

ああ、幸せすぎた。

ウウー……！

ん？

アナウンス『セキユリティ3が突破されました。生徒の皆さんは速やかに屋外へ避難してください』

「おいおい嘘だろ!!?」

「とにかく逃げろ!!」

そんなアナウンスが聞こえた後すぐに生徒の皆は出口に行こうと一斉に動き出す。しかしそのせいで出口は寿司詰め状態になり、ほとんど動けないようだ。

ノエル「まったく、とても幸せな気分になってたのに……」
窓の方を見てみる。

そのには雄英の門に集るマスコミ達の姿が。

エルゼ『これがマスゴミと言われる所以かな。』

絶対そうでしょ。

取り敢えず避難に従いますか。

トコトコ（（（（*・ω・）

あ、緑谷くん達だ。

ノエル「おーい、三人共大丈夫？」

飯田「む、天海くんか！」

麗日「良かった、無事やったんや！」

ノエル「皆の姿見えたから来ちやった。」

エルゼ『この状況、まず皆を混乱から落ち着かせないと。』

うん、ここに居る3人なら出来そうだけど。

よし、勝利の法則は決まった！（*・?・*）

ノエル「よし、この場をどうにか出来る方法を思いついたよ。」

飯田「本当か!？」

緑谷「具体的にはどうすれば？」

ノエル「じゃあ作戦を言うね？まず…」

飯田くんを麗日さんの個性で浮かせて、それを緑谷くんと私で上の壁まで投げる。

ノエル「後は飯田くん、アドリブでお願いね。」

飯田「分かった、この場は俺が何とかしてみせる！」

麗日「よし、浮かすよ！」タッチ（*・ω・）ノ

フワー

ノエル「よし、緑谷くん！タイミング合わせるよ！」

緑谷「うん！任せて！」

二人「セーのー！」ブオン

ビダン！

飯田「皆さん！落ち着いて下さい！だいじょーぶ！」

この後、飯田くんが場を収め、混乱から落ち着かせる事に成功した。

ナイス飯田くん。

その後教室に戻った後に緑谷君が

出久「やっぱり委員長は飯田君がいいと思います。」

と言って、その場にいた上鳴君とか切島君とか証人となり、飯田君が委員長になり

ました。

エルゼ 『まあ、それっぽい見た目してるしね。』

確かにw

頑張れ飯田くん。

しかし、その裏では、何かが暗躍していた。

レスキュースペーシー
　　～悪意との直面～

今回のヒーロー基礎学だが、俺とオールマイトそれともう一人の三人体制ですることになった」

出久「(なった？特例なのかな…)」

ノエル(そのもう一人が知りたい…)

今日も今日とて重りをつけてるノエル。

エルゼ『何するんだろうね』

瀬呂「はい！何やるんすか？」

相澤「災害水難なんでもござれの人命救助レスキュー訓練だ」

相澤先生が出したプレートには、オールマイトの時と同じように『RESCUE』と書かれている。

上鳴「レスキューか…今回も大変そうだなー」

芦戸「確かにねー！」

切島「バッカお前これぞヒーローの本分だぜ！なるぜ！！腕が！！」

蛙水「水難なら私の独壇場だわケロケロ」

ノエル（エルゼ、流石にこれは）

エルゼ『うん、外そうか。』

相澤「静かに」

「「「「！」「」」」」

相澤「今回コスチュームの着用は各自の判断に任せる。コスチュームによっては活動や動きが限定される物があるからな。今回の訓練場は少し離れた場所にあるからバスに乗っていく。以上準備開始」

「「「「はいっ!!」「」」」」

麗日「ん。デクくん体操服だ。コスチュームは？」

緑谷「前回の戦闘訓練でボロボロになっちゃったから…修復をサポート会社がしてくれるらしくてね。それ待ちなんだ。この辺は買い戻し」

飯田「バスの席順でスムーズにいくよう番号順に二列で並ぼう!!」ピッ ピッ

麗日「飯田くん…フルスロットル……………」

緑谷「笛はどつから出したんだろ？」

ノエル「まあまあ、さっさと乗らないと相澤先生に言われるからね。」

くくく

飯田「こういうタイプだったくそう!!」

「瀬呂「これ受験の時乗ったよな？」

飯田「ハッ!!!」

ノエル「ドンマイドンマイ」

蛙水「私思ったことはなんでも言っちゃおうの緑谷ちゃん」

緑谷「あ!!? ハイ!!? 蛙吹さん!!」

蛙水「梅雨ちゃんと呼んで」

ノエル（蛙水さん? なんだろう…）

エルゼ『あ、そうだノエル! 今日救助訓練で新しいトレーニングアイテム使うよ!』

ノエル（ここでも使うんですかエルゼさん。）

エルゼ『まあ、トレーニングアイテム兼サポートアイテムだから安心して! きつと役に立つ!』

ノエル（ならいいよ!）??。??（* ?? ?* ?* ??）??

蛙水「あなたの“個性”オールマイトに似てる」

出久「!!! そそそそそそうかな!?! いやでも僕はそのえー」

と、緑谷は動揺を隠しきれていない。

ノエル（明らかに動揺してる…）

エルゼ『確実に何か隠してるよね』

ノエル（一体彼に何が…）

切島「待てよ梅雨ちゃん、オールマイトは怪我しねえぞ？似て非なるアレだぜ。しかし増強型のシンプルな個性はいいな！派手で出来る事が多い！俺の“硬化”は対人じゃ強えけどいかんせん地味なんだよな」ガチガチ

出久「そんなことないよ、僕はプロでも十分に通用する個性だと思うよ？」

上鳴「プロなー？しかしやっぱヒーローも人気商売みてえなところもあるぜ!？」

青山「僕のネビルレーザーは派手さも強さもプロ並み☆」

麗日「でもお腹壊しちゃうのはヨクナイね！」

青山「……………」

論破されたあ！

エルゼ『意気消沈の青山くんであった…』

上鳴「派手で強えと言ったらやっぱ轟とか爆豪とか、後天海だよな！」

ノエル「えっ私？」

芦戸「そうそう！だつてあのオールマイトに勝っちゃったし！」

ノエル「あれオールマイト本気じゃないからね？全然勝つたとは言えないからね？」

尾白「そうだとしても勝つた事には変わりないさ。」

上鳴「オールマイトとほぼ互角だったしな！」

エルゼ『好評じゃん。』

ノエル「正直言つてあれは遊ばれてた、はず。」

結局私は知らないところで何故か強さの基準と株が上がっていた。

蛙水「爆豪ちゃんはキレてばっかだから人気出なさそ」

蛙水さんが爆弾を投下した。

爆豪「んだとコラ出すわ!!」グオツ!

蛙水「ホラ」

上鳴「この付き合いの浅さで既にクソを下水で煮込んだような性格と認識されるって
すげえよ」

爆豪「てめえのボキャブラリーは何だコラ殺すぞ!」

ノエル「あーあー、うるさいなあ。」

爆豪「ア、ア、!?宇宙人てめえ!」

なんか私宇宙人扱いされとる。

エルゼ『まあ私の個性のアレもあるしあながち間違いではない。』

ノエル「いや、事実しか言つてないしそんなにキレてると白髪増えるし地球上の酸素
たくさん使うからあんまりキレるのやめよ?地球温暖化引き起こすよ?」

爆豪「てめえ!」

相澤「そろそろ着くぞ。静かにしろ」

「「「はい!!」「」」ビシッ!

爆豪「…ちっ!」

はい論破!

エルゼ『えげつねえw』

∴

上鳴「すっげー!!!」

瀬呂「USJかよ!!?」

A組の面々は訓練施設に着いていた。

13号「ここは水難事故、土砂災害、火事…: e t c. あらゆる事故や災害を想定し、

僕がつくった演習場、『嘘のU災害やS事故ルームJ!!』

皆「「「(((((USJだった!!)))」」」」

ノエル「先生、ここってユニバーサルスタジ…」

13号「嘘の!災害や!事故ルーム!」

ノエル「…はい。」

エルゼ『ドンマイ』

そして宇宙飛行士のようなヒーロー——13号によるお話が終わった。

結論、宇宙とは偉大であり、壮大である。

そして、訓練内容の説明に移ろうとした瞬間…

未だ感じた事のない悪意を感知した。

二人『「っ!?」ゾワツ

相澤「どうした天海：っ!?全員一かたまりになつてうごくな!!」

皆「「「「!!」」」」

突然、中央広場に黒い渦が現れた。そしてそれはどんどん大きくなり、そこから顔に手を装着した男が出た。さらにかにも悪そうな奴らがどんどんわき出てくる。

切島「何だアリヤ!?また入試ん時みたいなもう始まつてんぞパターン?」

ノエル「先生!これって…」

相澤「ああ!敵だ!!!」

モヤ男「イレイザーヘッドに13号ですか…先日頂いたカリキュラムにはオールマイトもいるはず…何か変更でもあったのでしょうか?」

手男「どこだよ…せっかくこんなに連れてきたのに…平和の象徴オールマイト……子供を殺せばくるのかなあ…?」

悪意は、すぐそこまで迫っていた。

バトルinUSJ 少女はヒーローになれるか

切島「敵ンン!?バカだろ!?ヒーローの学校に入り込んでくるなんてアホ過ぎるぞ!」

ノエル「先生侵入者用のセンサーは!」

13号「もちろんあります!」

轟「ここだけなのか学校全体か…どっちにしろセンサーが反応しないなら、敵にそう
いうことが出来る。個性“がいる”ってこと。校舎の離れた隔離空間。そこに少人数ク
ラスが入る時間割…奴ら、バカだけアホじゃない…これは何らかの目的があつて用意
周到に画策された奇襲。」

エルゼ『いや、おそらく敵はここにしかない。あの霧男と手の男が言ってる。オー
ルマイトはここには居ないのだから。おそらく狙いはオールマイトだよ。』

だったら余計にこっちがヤバイ!

相澤「13号避難開始!学校にも連絡させ!センサーの対策も頭にある敵だ。電波系
の“個性“が妨害している可能性もある。上鳴お前も“個性“で連絡させ!」

上鳴「っス!」

出久「先生は!?一人で戦うんですか!?あの数じゃいくら“個性“を消すっていても

!!イレイザーヘッドの戦闘スタイルは個性を消してからの捕縛です! 正面戦闘は…

相澤「緑谷、覚えとけ。一芸だけじゃヒーローは務まらない!」

ダツ!

不味いあのままじゃ先生が死ぬかも! 私の直感がそう言ってる!

エルゼ『奇遇だね私もだよ!』

ノエル(行くしかない!)

エルゼ『まってノエル! 行くならこれ付けて!』キイイ

ノエル(ん? 何これ?)

エルゼが出したのは時計型のアイテムだった。

エルゼ『それは《マリノウオッチ》。私の世界にあったYSPウオッチという変身ウオッチを改造したものだよ。付けるだけで少しステータスアップ、そしてメダルを挿入口に入れる事で武器を出せたり必殺技も出せる!』

なるほどこれが言ってた2つ目のトレーニングアイテム?

『そーその機能は使える時でいい、だから今は!』

ノエルの手には数枚のメダルが握られていた。

…うん!

ノエル「相澤先生のサポート!」ダツ!

皆 「「「?!?」」」

相澤 「くっ、きりがいな。」 シュツ!

「グアッ!」「ちっ、個性が出ねえ!」「数で押し潰せ!」

ノエル 「ハートビツト!」 シュン!

「「ぐああああ!」」 ドゴオン!

相澤 「なっ!?!」

ノエル 「先生!大丈夫ですか?」

相澤 「天海、何故来た!ここは危険だ!」

ノエル 「すみません先生!でも先生も危ないですからね!?!」

相澤 「そんなの百も承知だ!俺達教師はお前らを守る義務と責任がある!」

ノエル 「反省文なら後で書きます!動きの邪魔はしないでサポートだけ!」

相澤 「: : つたく、帰ったら覚えとけよ!」

ノエル 「はい!」

:

「なんだこいつらあ!?!」「つええ!」「ガキを狙え!」

ノエル「そんな簡単にやられないっての！」

「ラブリープリチー玉！」

ノエルはラブリープリチー玉をいつもの巨大サイズではなく分散させて数を増やした。

エルゼ『発想力！』

ノエル「いけっ！」

ドガガガガアン！

手男「…なんであのガキあんな強えんだよ。」

モヤ男「死柄木弔、一筋縄ではいかないようです。」

死柄木「…だな。おい黒霧、《脳無》動かすぞ。」

黒霧「了解です。」

ノエル「はあっ！」ドガアン！

相澤「天海！あんまり前出るなよ！」

ノエル「了解っ！」

ノエルはエルゼから貰ったマリノウオツチにメダルを装填する。

《Extension》

ノエル「はあああああ！」ボウツ

《Macinus》

ノエルが装填したメダルはパンプアップメダルというメダル。これは対象の身体能力を底上げする身体強化メダルである。

エルゼ『私オリジナルです!』

ノエル「ミカエルズハンマー!」

ドツガアン!

「「うわああ!」」

相澤「…すげえな。」

めつちや便利やなマリナウオツチ。

エルゼ『でしょ?』

ノエル「よし、このまま…!」

その瞬間、今までは桁にならないほどの殺気が私を襲う。

ノエル「つつつ!?!?!」

ドガアン!

相澤「!?!天海!」

ノエル「あ、危なかつた…!」

エルゼ『一瞬でも避けるのが遅かったら巻き込まれてた…』

死柄木「そいつは脳無って言ってるな、対オールマイト用の兵器さ。」

ノエル「オールマイト!?!」

エルゼ『つまり、オールマイトを殺せるだけの力を持つ改造人間、であってるのかな…』

死柄木「ま、お前達は何にせよここで全員死ぬ。」

ノエル「舐められたもんだね、オールマイトは殺せないよ。」

死柄木「はっ、言ってる。脳無、やれ。」

脳無「…」

ドツ!

ノエル「先生下がって!」

キイイ

ノエル「ラブリープリチー玉!!」

ドガアアアン!

エルゼ『パンプアップメダルで威力も上がってる!』

死柄木「そいつには効かないぜ?」

脳無「…」

ノエル「なっ、んでっ!？」

死柄木「そうそう、脳無には個性が複数あつてな、超再生にシヨック吸収、おまけにオールマイイト並の超体力。脳無にはどんな攻撃も無効に終わるのさ。」

エルゼ『チートじゃん…』

死柄木「脳無、やれ。」

脳無「…」ドツ!

次の瞬間、脳無はノエルの目の前まで来ていた。

ノエル「はっ」

ドゴオツ

ノエル「ゴッ」

ズドガアン!

ノエル「ゲフアツ! ウエツ!」バチャバチャ

相澤「天海っ…!」

やばい、アバラいったかな。血も流しすぎてるし…

死柄木「くふふ、脆いなあ…」

エルゼ『ノエル! 気を確かにもって! ノエルっ!』

ノエル（エルゼ、ごめん、ね…）
ガクッ

エルゼ『ノエルーー！』

許さない。

エルゼ『よくもノエルを…』

お前達は、私の心を…

完全に滾らせた。

：

相澤 「くくくっつ」 バキベキ…

死柄木 「個性^{!!!!}を消せる。素敵だけなんてことはないね。圧倒的な力の前ではつまりただの “無個性” だもの」

相澤 「ぐあ…!! (小枝でも折るかのよう…!! 身体の一部でも見れば消せる…!! つまり素の力がコレか! 本当にオールマイト並みじゃねえか…) つ!」 グシャツ!

相澤は脳無に組伏せられていた。そしてそんな相澤に死柄木はゆっくりと歩く。

もうここまでか…

ノエル? 「どいて。」

ドガアン!

次の瞬間、死柄木は近くの木まで吹っ飛ばされていた。

死柄木「なっ!? お前は瀕死だったはずだろ!？」

ノエルの傷は、何事も無かったかのように治っていた。

どうやらエルゼの力のようだ。

ノエル? 「許さない、ノエルをここまでボロボロにして…。」

今のノエルは、エルゼとチェンジしているようだ。

エルゼ「覚えときなさい。別の世界でその名を馳せてた魔少女の名前を。」

「エルゼメキアの名を!」

「《ミラクルプリズマー》!」

その瞬間、ノエルの目の前に杖が出てくる。

それを手に取ると、ノエルの身体が光を纏う。

姿はどんどん変わっていき、その姿はまるで『魔法少女』のようだ。

黒霧「なっ…!?!」

死柄木「な、なんだよお前!?!」

エルゼ「私はエルゼ。またの名を…」

『エルゼメキア』。侵略魔少女エルゼメキアよ。」

逆転少女　　↳　mission　　脳無を討伐せよ　　↳

エルゼ「私はエルゼ。またの名を…、『エルゼメキア』。侵略魔少女エルゼメキアよ。」

死柄木「魔少女だか魔女だか知らねえが、今度こそ死ね！脳無！」

脳無「…」ドツ！

エルゼ「遅いわ。」ガッ！

脳無「…！」グググ

脳無の拳を受け止めていた。

死柄木「の、脳無のスピードに追いついてるだど!?」

エルゼ「確かに身体体力はオールマイト並ね。でも当たらなければ雑魚と同じ。」

死柄木「ほざけえ！」

脳無「…」ズドドドドド

エルゼ「だから遅いつて。」パパパパ

エルゼはすべて手で受け止めている。

死柄木「おいおい、手に当たってるだろ!?なんで怪我のひとつもねえんだよ!?」

エルゼ「はあ…、『コスチューム』を着替えただけで身体能力とか何も変わってないの

にね。」

死柄木 「嘘だ…、嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ!!!」

「脳無…そいつを今すぐぶつ殺せえ!」

エルゼ 「もう貴方の攻撃は効かないわ。」

腕を大きくする。

エルゼ 「デリートフィスト。」

脳無の拳とエルゼのデリートフィストが真つ向から衝突する。

勝ったのはエルゼだった。

脳無 「…!?!」ドゴオン!

エルゼ 「…へえ。」

死柄木 「くくく、そうだったな。こいつにはショック吸収と超再生があった!お前の攻撃は効かない!」

エルゼ 「確かにその二つは厄介だなあ。」

「でももういいや。」

《《Extension》》

メダルを装填する。

エルゼ「これで決めてあげる。」
《Macinus》

死柄木「なっ、なんだ：!?!」

エルゼ『シスターローラー!』キユイイイイ!

エルゼの持っている杖の中の星が高速回転していく。

脳無「……!」グオ!

エルゼ「じゃあね。」シユパ。パ。パ!

次の瞬間、脳無は脳天からつま先まで細切れになり地面にバラバラになっていた。

死柄木「だ、大丈夫だ。脳無には超再生がある。あれだけ細切れにされようとも……」

しかし何も起こらない。

死柄木「な、なんで再生されねえ!?!」

エルゼ「理由としては3つ。ひとつ、脳ごと切り裂いたから。ふたつ、細切れにしすぎて限界を超えた。みつつ、念の為斬るときに切った場所に妖力を込めたから再生する

所がブロックされている。」

死柄木「な、馬鹿な…。」

：

マイト「少年少女達、もう大丈夫！何故って？私が来た！」

飯田「1年A組学級委員長飯田天哉！ただいま戻りました！」

その後、オールマイトや他の先生達をつれてきた飯田君が戻ってきて残りのチンピラ敵達はすぐに制圧された。

脳無を倒したすぐ後、黒霧と死柄木は黒霧のワープホールを通って逃げた。

死柄木「おい、次は必ず殺す。」ズズ

なんか殺害予告されたけど多分ノエルに対してかな。させないけど。

エルゼ「ふうっ…。」

マイト「あ、天海少女！無事かい!？」

エルゼ「ええ、大丈夫よオールマイト。」

マイト「…君、天海少女ではないな？」

何故一瞬でバレた。

エルゼ「バレるの早すぎませんか？」

マイト「口調と雰囲気で分かったさ。君は何者なんだい？」

エルゼ「はあっ…、出来ればバレたくなかったな。」

「いいでしょう、話はします。でもこれはクラスメイトとかには内緒で。」

マイト「…分かった。」

ごめんノエル、勝手に約束しちやった。許してね。

…

校長「それでは、話してもらおうのさ！」

あの後、目を覚ました私はエルゼから全て聞き、エルゼの事を話さないといけなくなった。ちゃんとエルゼとはチェンジして今は私が身体を動かしている。

エルゼ『ほんとごめん。』

ノエル（これに関しては私も悪いし何より緊急事態だったからね。仕方ないよ。）

「えっと、どこから話せばいいですかね？」

校長「そうだなあ、出会った経緯から聞こうか！」

ノエル「分かりました。えーっと…」

あの後、エルゼに関しての事を話した。勿論、どこの世界から来たのかも。

だってエルゼに話していいって言われたんだもん。

校長「宇宙人、いや、異星人か。」

マイク「Yeah…、にわかには信じ難いが。」

スナイプ「でもこうして彼女の身体に居るといふことがなによりの証拠。」

ミッド「前の世界でも苦勞してたのね。」

ノエル「まあ、これで全てです。」

校長「ふむ、よく分かった。これで危害を加えたりする危険な生命体だったら処置はとつていたが…。」

二人（『いや怖っ』）

校長「…とりあえずそのエルゼさんと変わってほしいのさ！」

ノエル「分かりました。」（エルゼ！）

エルゼ『了解！』

『チェーンジ！』フツ

エルゼ「…ふう、で？何でしょうか。」

校長「きみがエルゼさんだね？まずは天海くんの命を救ってくれてありがとう！」

エルゼ「ノエルの中に入ってますし、なによりノエルは相棒ですから。」

校長「ああ、君の処分についてだが…」

「ちゃんとした個性としてこちらにも登録しよう。しかし、生徒には秘密ということにするのさ！」

エルゼ「ええ、これまで通りunknownで通します。」

校長「うん、これからも天海くんを守って欲しいのさ！」
エルゼ「当然です。」

：

教室

ノエル「…ふう。」ガラガラ

皆「…っ!!!」

ノエル「えっ」

皆「…天海い（ノエルちゃーん！）ー！ー！ー！」

二人「!?!」

ノエル「み、皆今日は帰れって言われてたはずじゃ…」

芦戸「だつて心配なんだもん!!」

緑谷「あんな怪我してたから本当に…」

ノエル「いや緑谷くんも指やつてたよね？」

緑谷「ぼ、僕は大丈夫！」

八百万「それより天海さんの方が心配ですわ！」

ワーワーギヤーギヤー

エルゼ『もの凄い心配してくれるじゃん。』

そうだね。心配されすぎて少し怖いけど。

あの後皆から傷の心配をされまくって無事が確認された後に何故飛び出したのか、何故あんな無茶をしたのかと言うのを言及されて皆から怒られて

もう無理や無茶をしないと約束してと言われた。

まあ無理な話なんだけどね。丁重にお断りさせていただいた。

体育祭編

ステンバイ　　くそこから先は地獄だぞく

USJの騒動の数日後…

麗日「あ！ノエルちゃんおはよ！身体は大丈夫？」

ノエル「うん！すこぶる調子よき。」

エルゼ「まあ私の力なんですけどね。」

エルゼ様には感謝してもしきれませんわく。

相澤「おはよう」

皆「「相澤先生復帰はええええええ！」」

相澤先生、包帯グルグル巻きなんですけど…

相澤「俺の心配は必要ない。それよりもまだ戦いは終わってないぞ。」

緑谷・爆豪（戦いが終わってない…？）

ノエル（戦いって、また敵が！）

相澤「雄英体育祭が迫っている。」

皆「「学校っぽいイベント来たアアアア！」」

切島「いやいやいやいや！あんな事があつたのに大丈夫なのかよ！」

相澤「たしかに本当は開催するべきでないとの声もあった。ウチも天海が大ケガしたしな。けれど、だからこそ開催し雄英の管理体制が盤石であることを示す必要があるとの結論に達した」

ノエル「もう治ってますけどね。」

相澤「…で事で、お前らしっかり体育祭に向けて準備しとけよ。」

皆「はい！」

：

ブラド「という事で！雄英体育祭がある！A組よりB組の方が優秀だと知らしめるチャンスでもある！確かにA組は敵と実際に遭遇し経験を積んだ。しかし！基礎なら我々も負けてない！今から妥当A組に向けて準備していけよ！」

皆「はい！」

拳藤「体育祭か…！ランガ、楽しみだね。」

ランガ「ああ、勝つのはB組だ…。」

：

放課後。

切島「うおー！何事だー!？」

たくさんの生徒が、僕らの教室を見渡していた。

峰田「出れねーじゃん何しに来たんだよ」

爆豪「敵情視察だろタコ」

峰田「緑谷ー！ お前の幼馴染どういう教育受けてんの?!」

峰田君が緑谷君に向かって叫ぶ。

緑谷「あはは…」

爆豪「ヴィランの襲撃を勝ち抜いたクラスだもんなあ。本番前に見ときてえんだろ。

意味ねーからどけモブども。」

ノエル「モブて…」

心操「こういうの見ちゃうと、幻滅するなあ。普通科にはヒーロー科落ちた人間も結構在籍してるんだ」

ずいっと男子生徒が近づいてくる。

心操「知ってるかい？ 体育祭のリザルトによっちゃあヒーロー科編入も検討してくれるんだって。俺は偵察じゃない。調子のとってると足元ゴツソリ掬っちゃおうっていう宣戦布告に来たつもりだ」

エルゼ『言うねえ。』

鉄哲「おい！ 隣のB組のもんだけどよ！ 敵と戦ったつつうから話聞きにきたんだ

がよう偉く調子づいてるなあ！本番で恥ずかしいことになるぞ！

ノエル（フラグ立ったな。）

エルゼ『立ちました！死亡フラグ！』

それちやう。

爆豪君はそんなB組の生徒の言葉も無視して帰ろうとする。

切島「爆豪！お前がまいた種だぞ！少しは…」

爆豪「関係ねえんだよ」

爆豪くんは言う。

爆豪「上に上がりやあ関係ねえ」

そう言つて爆豪くんは去つていく。

ノエル（なるほど。一番になればそいつが正しくなるから関係ないって事ね。）

エルゼ『なんとも簡単な…』

：

エルゼ『という事でこのままじゃ私達は一番になれません。』

ノエル「たしかに。どうするの？」

エルゼ『今までの重りつけるのとく、』

『後マリナウォッチにもう一つ機能があるつて言ったでしょ？それを使います！』

ノエル「その機能とは…」

エルゼ『それじゃあ、これを使おう。』キィイ

数枚のメダルが出てきた。

その内の一つを見てみると、メダルは黒色、描かれているイラストも白黒で、名前は『劍豪 紅丸』と書かれていた。

ノエル「あの、このメダルは…?」

エルゼ『私が元いた世界にいた《妖怪ヒーロー》達を模して作ったトレーニング相手だよ。』

『その名も！《アナザーモノクロヒーローズ》！略してAMHZ！(アンフズ)』

ノエル「あ、アンフズ…。なんというか、微妙な名前…」

エルゼ『何言ってるの！これから貴方をしごき回す優秀な戦闘相手なのに！』

ノエル「今しごき回すって言った？言ったよね!？」

エルゼ『それじゃ、早速始めようか！紅丸!』

紅丸《対象を確認、戦闘を開始します。》キキキ

ドオツ！

ノエル「危なっ!」

ドガァン！

紅丸が殴ったところには穴ぼこが出来ていた。

ノエル「あれ？喰らったら死ぬくない？」

エルゼ『死にたくなければ戦いなさい！』

『戦わなければ生き残れないわ！』

ノエル「この鬼畜めえ！」

エルゼ『私元の世界では十分残虐だったけどね。』

こうして体育祭までの間、エルゼの作ったアンフズとエルゼにしごき回されました。

もうやだあ。

宣戦布告

くならば答えはひとつく

く体育祭開会式前、選手控え室く

芦戸「あゝ、コスチューム着たかったなー」

瀬呂「公平を期すために着用不可なんだとー」

出久「天海さん、大丈夫：？」

ノエル「あくうん大丈夫くちよつと休めば元通りだから心配しないでく。」

出久「す、すごい力抜けてる：」

ノエル「ちくしょうあの魔少女め。あんなきつくする事ないじゃん：」

皆（（一体何が：））

く

飯田「さあ皆！開会式まで5分前だ！入場口へ向かおう！」

轟「緑谷。」

出久「轟くん：：。」

ノエル「ん？」

轟「お前、オールマイトに目えかけられてるよな。」

出久「っ！」

轟「別にそこ詮索するつもりはないが…、お前には勝つぞ」

エルゼ『今時宣戦布告とは珍しい…』

ノエル（え、珍しいものなの？）

轟くんは緑谷くんに宣戦布告が終わると何故かこちらへ来た。

アレ？これって…

轟「そして天海。」

いや、まさかな…

轟「客観的に見てお前の方が実力が上だと思う。」

ノエル（嘘だと言って…）

エルゼ『ノエル、覚悟を決めようか。』

轟「でも、お前にも勝つぞ。」

上鳴「おおつ、推薦入学者の轟が緑谷と同じ推薦入学者の天海に宣戦布告だあ！」

切島「ちよつ、やめようぜ。開会式前だし…」

轟「別にいいだろ、馴れ合いじゃなねえんだぞ。」

出久「轟くん。」

出久が轟に話しかける。

出久「轟くんがどういいうつもりで僕に勝つかは分からないけど、僕だって本気で獲りに行く！」

轟「…そうか。」

轟さんはそう返すだけだった。

轟「お前はどうなんだ、天海」

こつちに振るな。

エルゼ『さあどうするw』

笑うなよエルゼもん！

仕方ない、こうなったら…

エルゼ『おい誰がエルゼもんだ。』

ノエル「轟くん、言葉だけならなんとでも言えるよ。」

轟「…なんだと？」

ノエル「よく覚えとくといい。人の心は発言では動かない事もある。人の心を動かす大半は、行動だよ。」

轟「…」

言ったったぞ。

エルゼ『ナイス。』

飯田「皆！開会式に遅れるぞ！早く入口に向かうぞ！」パンパン

静寂を我らが委員長、飯田天哉君が破った。

正直言つてありがとう。

）

マイク『雄英体育祭!!ヒーローの卵たちが我こそはとシノギを削る年に一度の大バトル!!どうさせてめーらアレだろこいつらだろ!!?敵の襲撃を受けたにも関わらず鋼の精神で乗り越えた奇跡の新星!!ヒーロー科!!1年!!A組だろおお!!』

「うおおおおお！」

ノエル「何この人の数やばっ」

エルゼ『もうこれひとつの学校の体育祭の規模じゃないって』

切島「すっげえ…、緊張するな、爆豪！」

爆豪「しねえよただただアガるわ！」

マイク『続いてヒーロー科B組い!』

ランガ「人が多いな…」

小大「…ん。」

鉄哲「うつひよー！燃えてきたア！」

マイク『ヒーロー科に続けて普通科C・D・E組!!サポート科F・G・H組もきた

ぞー！そして経営科……』

「俺らつて完全に引き立て役だよなあ」

「たるいよねー……」

「……………ハア……………」

テンションひくーい。

）

ミッド「選手宣誓!!」ピシャン

鞭を鳴らして言ったのは、格好が公共の場で着ていいのかとても際どいラインの18

禁ヒーロー『ミッドナイト』だ。

常闇「18禁なのに高校にいてもいいものか」

峰田「いい」

常闇から正論が飛ぶが、峰田が否定する。

ミッド「静かにしなさい!! 選手代表!!」

1-A、「天海ノエル!!」

二人『「ふえ?」』

瞬間、頭がフリーズした。

ミッド「天海さん!こちらに来なさい!」

ノエル「…なんでこんなにも巻き込まれるんだろうなあ。」
タツタツタツ

)

上鳴「えっ？選手宣誓って首席の爆豪じゃねえの？」

瀬呂「そのはずなんだがな…」

耳郎「まあいいんじゃない？爆豪は煽りそうだし。」

爆豪「んだと！」

轟「…」

)

ミッド「ごめんね天海さんっ！」パンツ

ノエル「爆豪くんじゃないんですか…？」

ミッド「ほら、爆豪くんあの性格だから何言うか…。だから同じクラスだし入試の成績とかも含めて貴方にやらせようとおもって。」

エルゼ『なるほど…』

ノエル「やるとは言っても何も考えてませんよ？」

ミッド「そこは、普通でもいいし取り敢えずやってみて！」

ノエル「りよーかいですう！」

)

ミツド「…て事で改めて！選手宣誓！代表！——A天海ノエル！」

ガヤガヤ

ノエル「ふう、宣誓。」

シーン…

ノエル「まず一言言わせてください。」

皆「「…?」「」

ノエル「ヒーロー科以外の普通科とかサポート科。盛り上げ役とか言ったりやる気ねえやつは帰ってほしいですっ！」

皆「「?!?!?」「」

「なんだとー!?!」「誰がやる気ねえだ!」「お前が帰れよ!」

ギヤーギヤーワーワー

ノエル「話は最後まで聴けえええ!!」キーン

皆「!!!」

ノエル「いい?そんなに悔しいなら、今の発言を撤回させたいなら!勝ってみせろ!自分達は出来るんだって所を見せてみる!この世界中が見てる中で!勝ちという名のチケツトを手に入れて見せろ!」

皆「!!!」

ノエル「:まあ最後には私が勝つんだけどね。皆の頑張りを期待してます。生徒代表
天海ノエル。」

皆「!!!」

ミッド「急に頼んだのありがとうね天海さん!では早速始めましょう!いわゆる予選よ!毎年ここで多くの者が涙を飲むわ!!さて運命の第一種目!!今年は:~:コレ!!!」ピ
ンッ!

『障害物競走』

ミッド「計1ークラスでの総当たりレースよ!コースはこのスタジアムの外周約4km
!我が校は自由さが売り文句!ウフフフ:コースさえ守れば何をしたらって構わないわ
!さあさあ位置につきまくりなさい:」

エルゼ『ノエル、準備はいい?』

ノエル（もちろん。目に物見せるよ。）
さあ、祭りの始まりだ！

障害物競走 ～アクション～

『3、2、1、スタート!』

始まりの合図が鳴り響く。

まあ私達は後ろからゆっくり行きませんか。

ノエル「うっわ寒っ」

エルゼ『ホントに後ろで良かったね』

開始直後、轟くんがいきなり氷ブツパして足元を凍りつかせる。

私は結構後ろにいたのでくらわなかった。

ゲートは足元が凍りついた選手がゲートの中にぎゅうぎゅう詰めになっており、普通なら通れない。

私浮けるから関係ないけど。

地面は生徒達が密集状態になっている。こんなとこ通れるわけないわ。

ノエル「おっさきき!」

出口を抜けると、日が差し込んできた。

後ろからは、A組の皆やB組、その他の選手も来ている。

ノエル「皆速いな…」

エルゼ『まあ大半着いてこれてないけど』

マイク『さあ！スタートダッシュで先頭に立ったのはA組轟！このまま先頭を保てるかあ!?!そしていきなり障害物だ!!まずは手始め……第一関門口ボ・インフェルノ!!』

ノエル「あ、入試のやつじゃん。」

「デカっ!?!」「ヒーロー科はあんなのと戦ってたのか…」「いや、てか多くね!?!」

ノエル「あの時はラブリープリチー玉で一撃だったなあ…」

エルゼ『懐かしいね。』

ノエル「まあ今の私達はこの私達では止まらないけどね。」キイイ

「デリートフェイストォー!」ドゴオン!

はい貫通。こんくらい訳ないね。

マイク『トップ集団を走るA組天海!殴っただけでロボ貫いたぞ!?!アイツの拳どうなってるの!?!』

相澤『アイツにとってはこれが普通だ。』

大正解相澤せんせえ!

ん?後ろから寒気が…

あ、轟くんか。ガチの寒気やん。

すぐ後ろで轟くんがロボットを身体丸々凍らせてた。怖っ

「あ、アイツらが動きを止めてるぜ！早く行くぞ！」

轟「やめといた方がいいぞ、無理な体制で凍らせたから倒れてくる。」

ノエル「ふっ！」ビューン

「あつやべっ」

ドツゴオオオオン

マイク『轟、天海！後方に妨害も同時にやってのけたあ！クレバー！』

相澤『天海は完璧偶然だろうがな。』

相澤先生、正解です。エルゼポイント1点あげましょう！

エルゼ『なんやそれ』

マイク『さあ、先頭は変わらずにA組轟！第一関門を抜け、第二関門に突入したぞ！

次は奈落に落ちたら即アウト!!それが嫌なら這いずりな!ザ・フォール!!空中の移動は厳禁!地面スレスレかその下、つまり土台を避けて飛ばないといけないぞ!』

ノエル「ふうん?空中を移動したらって事は上に沢山仕掛けがある訳だ。」

「これ下の渓谷通ればいい話だよな。」ヒューン 〓???() ()
 マイク『おおつと天海！渓谷を通っていく！確かにあそこならトラップも何も無い！
 実にクレバー！』

相澤『システムの裏をつく悪くない方法だな。』
 ん？また寒気が…

パキパキ

ノエル「轟くん？やめようか？」

轟「…！」パキパキ

やばい氷がこつちに大量にくる！

エルゼ『確実に妨害しに来てるね。』

ならっ！

ノエル「ならっ！」

エネルギーを手に溜めてっ！

その状態で一気に回る！

ノエル「即興必殺！《ハートレスティアーズ！》ブオオン！

パリーン！

一つの極太の横線となり氷を砕く。

マイク『さあ轟が天海の妨害に行つたが天海はそれを砕くつ！このまま最終関門に入するかあ!？』

エルゼ『ノエル、後ろから爆豪くんも来てる。』

まじか。レジ○ガスかよ。

マイク『さあさあさあ！トップは第三関門に！首位は変わり天海がトップに！このまま最後の第三関門に向かう!!第三関門の内容は一面地雷原！怒りのアフガンだ！爆発を避けたいならゆつくり避けながら進むのをオススメするぜえ!？』

ノエル「飛べるやつにそんなこと言われてもなあ！」ヒューン 〓???

(

⊠?

⊠)

マイク『トップの天海！空を飛ぶ！つとそこに爆豪轟が追い上げてくるう!』

爆豪「までやコスプレ女ああああ！」ボボボボン！

轟「…!」パキパキパキパキ

ノエル「いつの間に名前変わってるし。」

エルゼ『宇宙人からコスプレイヤーにランクダウンした気が』

マイク『さあさあ！天海のすぐ後ろには爆豪轟！天海はこのままいけるかあ!？』

爆豪「おいコスプレイヤー！俺の前を走るんじやねえええええ！」グオオツ

ノエル「危なっ」ササツ

マイク『首位は変わり爆豪！爆破で進んでいく！轟もその後ろから追いかける！そして天海も後ろを追いかける！』

ノエル「このまま終わるかあ！」ヒイイイ

ノエルの手にエネルギーが溜まる。

ノエル「《ハートフルティアーズ！》」

それは極太のビームだった。

そのビームは地雷を沢山起動し爆発させる。

爆・轟「っ!?!」ドッガアン！

ノエル「はいお先！」ヒューン 〓???() ⊠?⊠

地雷エリアの出口に着いた。

なんか後ろから大爆発が聞こえたけど気にせず行こう。

タタタタタ：

マイク『さあさあマスメディア！カメラは準備出来たかあ!?!帰って来たぜあの男が!!今、堂々とスタジアムに来たぞ！そう、

天海ノエルだああああ!!!』

ワアアアアアア!!!

ノエル「(* . *) どやあ、どやあ」

く数分後く

ミッド『さあ、障害物競走の上位42人が揃ったわね！次の種目はこれよ！』

障害物競走

ミッド『参加者は2く4人のチームを組んで先ほどの予選順位の結果に従いポイントが与えられるわ。42位は5p、41位は10pみたいな感じよ。

そして1位の人のポイントはなんと、1000万ポイントです！』

ノエル「…いつせんまん？」

一瞬にして皆の視線がこちらに集まる。

ノエル「…（（（（? ）））プルプルプルプルプルプル」

エルゼ『ノエル、選べ。1000万を背負うか、死か！』

ノエル（…はあーっはっはっはあ！ならばあ、答えはひとつだア！）

じゃねーよ。

騎馬戦　　↳頼もしい仲間↳

ノエル「（（（（
 ☒?☒）））プルプルプルプルプルプル」

エルゼ『まだ震えてるの?』

ノエル「だって10000万って…」

皆何故か避けてくるし…

ノエル（このままじゃ私脱落?）

エルゼ『大丈夫だよ!そんな時こそアレを使おう!』

アレ?

…そっか!そういう事ね!

ミッド「皆準備出来たかしら!」

マイク『おっとお!?天海のところなんだありやあ!』

ノエルを見てみると、そこにはアンフズ三体の上に乗っているノエルの姿があった。

配置は前にワイルドボーイ、左にブルームーン、そして右に紅丸である。

ノエル「さあ皆!てっぺんとるよ!」

ボーイ「さあ、ワイルドにいくぜ！」

ムーン「二位はもう、僕達のブルーの中にある！」

紅丸「紅に染まったこの身体、お主らの血でさらに真っ赤になるの巻！」

皆「二人物騒なの居る!?!」

マイク『へいイレイザー！ありやあアリなのか？』

相澤『アイツの個性のひとつだ。当の本人の天海はその三体の上に乗っかり騎馬が出来ている。アリという判定になる。』

マイク『なるほどセンキュー！』

エルゼ『ね？どうにかなったでしょ？』

まじエルゼ天才。大好き。

エルゼ『そ、そんなこと言われても嬉しくねえぞこのやろく！』ルン?? (* ?? ?
*)?ルン

嬉しそうなのが明らかだあね。

ノエル「ボーイ、初手かましたれ。」

ボーイ「オーケイ主、俺の力見せてやるぜ！」

ノエル「二人は臨戦態勢！」

二人「了解！」チャキツ

ミッド「それでは騎馬戦、よいい、スタート！」パアン
皆「狙いはもちろん！」「1000万！」「よこせえ！」グオ！
ノエル「来ると思ってたよ！ボーイ！」

ボーイ「いくぜえ！」

《Y!》

メダルを装填する。

《Execute!》

ボーイ「wild act! (ワイルドアクト)」ドガガガガ

ボーイが撃つ無数の弾丸は、意志を持っているかのように曲がり、ポイントを取りに来た大半が餌食になった。

「ぐああああ！」

ボーイ「安心しな、ゴム弾さ！」フー

マイク『さあ、開始直後に天海の元へ大量に行ったが一蹴された！あの技強スギイ！』
相澤『あそこまで正確に撃つことが出来るとは。』

爆豪「コスプレ女あああ!!!」ボボボボボ

あ、爆小僧だ。

エルゼ『（、ω、）プフオwwwそんなこと言ってる場合か！』

爆豪「おらあ！」ボオン！

紅丸「ぬん！」ガキイン！

マイク『爆豪天海に一撃！だが防がれてしまう！』

紅丸「主殿には触れさせんぞ！」ブン！

爆豪「ちいつ！飼い猫が！」フオン

マイク『さあ、爆豪を退けた天海だが、まだまだ周りに沢山いるぞお！』

ボーイ「どうする主！」バアン

ノエル「決まってる！ムーン！やっちゃえ！」

ムーン「了解！主様！」

《Y！》

《EXCUTE！》

ムーン「君達はもう、僕のブルーの中にいる！」

「ブルーストリーム！」ババババ

「「うわああああ！」」ヒューーン

ブルームーンが激流を操って上へと飛ばす。

ノエル「ボーイ！ムーン！」

二人「了解！」

ワイルドボーイが打ち上げられた騎手のハチマキを撃ちあげ、ブルームーンが水を操りハチマキを引き寄せる。

ノエル「いよっし！」

マイク『おおつとここで天海が大きく動く！半分以上の騎馬のポイントを奪っていく！』

相澤『妨害とポイント獲得を同時にやっているな。』

マイク『ここで残り時間は5分！』

ノエル「さーて、このまま行けばいいけど。」

エルゼ『油断は出来ないよ！』

紅丸「主殿、右に！」

ノエル「っ！」

轟「そろそろ取るぞ、天海。」

ノエル「来たのね、どっからでもどうぞ？」

パキパキ

氷が迫ってくる。

紅丸「ぬんっ！」

紅丸が斬撃を飛ばし氷を相殺する。

八百万「隙ありですわ！」

ムーン「させないよっ！」キィィ

八百万の伸ばしてきた鉄の棒をブルームーンが魔法陣を張って防ぐ。

八百万「そんな事もっ!？」

轟「だつたら!上鳴!」

上鳴「おうよお!くらいやがれ!」バリバリ

エルゼ『デカいの来るよ!』

分かってらい!

ノエル「紅丸!地面に斬撃!ムーンは魔法陣張って!ボーイはアレの準備!」

紅丸「御意!」

ムーン「了解!」

ボーイ「オーケイ!アレだね!」

紅丸とワイルドボーイはメダルを装填する。

《《Y!》》

《《EXEcut e!》》

ムーン「はあっ!」ブオン

ブルームーンが魔法陣を張り、

紅丸「紅き、一閃！」

紅丸が必殺技で斬撃を飛ばし、

ボーイ「黄昏乱れ撃ち！」ドバババババ

ワイルドボーイが銃を乱れ撃ちする。

両者衝突し、大爆発が起こる。

ドツゴオン！

ノエル「同時か……」

エルゼ『何とかなかったね』

マイク『さあ、壮絶な死闘が行われてたが時間も迫ってるぜえ!?残り時間は1分だあ

!』

飯田「轟くん、この後俺は使い物にならなくなる。」

轟「飯田、何をっ」

飯田「必ず取れよ！」キィィ

飯田「レシプロバースト!!!」

エルゼ『マズイっ!』

ノエル（ヤバい、飛んでも間に合わない!）

「ちっ、こごうなったら…」

目にエネルギーを集中させる。

ノエル「使いたくなかったけど！」

「《マゼラルアイ!》 キーイ!

その瞬間、ノエルの見える全てがスローになる。

飯田達のスピードも中学生が全力で走ってくるくらいのスピードになっていた。

もちろん、ノエルが避けられないわけもなく

ノエル「つらあ!」グオツ

「解除!」フウツ

マイク『おおっとお!?天海あのスピードを避ける!なんつー動体視力!』

相澤『いや、あれはアイツの技で目に力を送ったんだ。それにアイツを試してみろ。』

その額には汗が映っている。

相澤『どうやらあの技は負担も大きいらしい。』

マイク『なるほどなあ!さあ轟チーム!最大のチャンスを失い残り時間はもうわずか

!』

『残り10秒!』

爆豪「コスプレ女ああああ!!!」ボボボボボ

エルゼ『うつわ来た。』

ノエル「ちっ、疲れてるって時に！」

爆豪「おらああああ！」

三人「「させるかあ！」」

ドガアン！

あと少しのところで紅丸達が爆豪を止める。

紅丸「10000万は渡さん！」シユツ

ムーン「これで終わり！」キィイ

ボーイ「get out！」バアン！

爆豪「くそがああああ!!!」ドゴオン！

マイク『time up!!!今から集計に入るから少し待っててくれよな！』

ノエル「ああ、疲れた……」

エルゼ『ホントお疲れ様。』

ノエル「紅丸達もホント助かった。ありがとうね。」

紅丸「役に立てたなら本望。」

ムーン「またいつでも呼んでくれよ。」

ボーイ「イエア、いつでも駆けつけるぜ！」

マイク『さあ、集計完了したから発表するぜ！』

一位 天海チーム（もはやノエル一人だからチームじゃない）

二位 轟チーム

三位 心操チーム

四位 爆豪チーム

五位 緑谷チーム

マイク『一位の天海チームが一人だから五位の緑谷チームから三人選出してくれ！』
結果、緑谷、麗日、常闇の三人が出ることになった。

休憩時間　　く轟くん家の家庭事情く

マイク『1時間程昼休憩挟んでから午後の部だぜ！じゃあな!!! イレイザーヘッド飯行こうぜ……!』

相澤『寝る』

マイク『ヒュー!』

エルゼ『いやマイク切つてから話してよ。』

∴

エルゼ『ハムスターみたいだね。』

ノエル「モツキュモツキュ（*・φ・*）」

唐揚げ美味しい。

轟「天海、ちよつといいか？」

ノエル「轟くん? どうしたのさ。」

轟「少し話がある。」

その後ろには緑谷くんも居た。

ノエル「あ、後10秒だけ待って。」

モキユキユキユキユキユ

ゴツクン

ノエル「ふいー、それじゃあ行こうか。」

緑谷「すごい速いね…」

）

轟「……悪いいな、時間取らせて」

ノエル「大丈夫だよ、話つてなあに？」

騎馬戦が終わった後、ノエルと緑谷は轟に呼び出されていた。何やら話したい事があるようだが、ノエルにはその内容の見当もつかない。というか彼に何かした訳でもない。彼が話し始めるのを、その辺の壁にもたれかけながら待ち続けていた。

ノエル（おなかいっぱいだあ）

エルゼ『ノエル、多分真面目な話だからちゃんと聴こうね。』

はーい。

そこから話されたのは、とても非常な現実だった。

個性婚。超常黎明期、人々に個性が芽生えて以降第二世代から第三世代で問題となったもの。より性能の良い個性を持った子どもを創り出すことを目的として為される婚姻のことである。

轟の父、No. 2ヒーローエンデヴァーは超えるべき目標としてオールマイトを常にライバル視していた。やがて自分ではオールマイトを超えられないと悟った彼は、高熱を操る自身の個性と相反する冷気を操る個性を持った女性と結婚する。自身の欠点であつた熱が籠つてやがて個性が使えなくなるという点を、冷却する個性で解決しようとしたのだ。

もちろん、そう上手くはいかない。何人も子どもができて、その度に失敗してきた。それでも諦めずに妻に子どもを産ませ続けて遂にできたのが末子の最高傑作、轟焦凍という訳である。

エンデヴァーは幼い轟に何度も辛い訓練をさせた。妻の静止も聞かず、轟をNo. 1を超えたヒーローにするために。優しかった母を追い詰めていった父のことを、轟はそれはもう憎んだ。

エンデヴァーを否定する。やがて家庭で唯一父から守ってくれた母も失つてからは、それが轟の行動理念となつた。両親から受け継いだ氷結と熱の個性の内氷結の方だけを用いてNo. 1となり、エンデヴァーなど必要なかつたと証明する。轟焦凍という男のたつた一つの目標であつた。

轟「俺の左側が憎い。段々とあのクソ野郎に似てくる俺のことを怖いと思つてしまふ。母はそう言つて俺に煮湯を浴びせた」

ノエル「…」

エルゼ『…』

緑谷「…」

轟「悪いな。気分悪くなる話だっただろ。それでもお前には聞いてほしかったんだ。同じオールマイトを超えようとする者として」

そう轟が去ろうとする

ノエル「…別に私はオールマイトを超えようとは思わない。」

轟「…？」ピタッ

ノエル「私はオールマイトのように全部守ろうとは思わない。だって無理じゃん。全部守るなんて世界中飛べない限り無理だしオールマイトでも海外までひとつ飛びなんて出来ないし。…まああの人だから分からないけど。」

緑谷（さすがに無理だと思う…）

ノエル「でも私は違う。周りが守ればそれでいい。手の届く範囲が丁度いい。そう思ってた時期がある。もちろん、救える命は他にもある。だからこそ最近自分から手を伸ばせば救えるなんておもったりしてさ。」

轟「…何が言いてえ。」

ノエル「全員が全員オールマイトに憧れてないよ？人の考えなんて十人十色、それぞれ

れの考えがある。だからこそその人としての“個性”を、命を守る為にヒーローは市民を救う。」

「貴方がオールマイトを超えようとしてるなら、まず目の前の壁を超えて見せろよ。」
そう言つてその場を去る。

）

マイク『予選落ちしたりリスナーに朗報だ！あくまでこれは体育祭！全員が参加できるレクリエーションだつて用意されてるのさあ！本場アメリカからチアリーダーも呼んでいっすうの盛り上げを……！』

皆「「……」」

拳藤「どうしたの、A組……？」

マイク『ありやあ？』

相澤『なーにやつてんだ、あいつら……』

視線を集めているのは、A組の女子陣。何故だか知らないが、雄英が招待したチアリーダーに混じつて同じ格好をしていた。全員、この世の全てを恨むかのようにどこか遠い目をしている。

事の発端は、上鳴の一言。みんながチアリーダーをしているところを見たがった彼が、騙されやすい上に衣装を用意できる八百万を言いくるめて女子陣に着させたのだ。

騙していることに気付いた峰田が珍しく止めようとしていたが、「でもお前も見たいだろ?」という言葉に嘘は付けずに結局やらせてしまう。その結果この状況が出来上がったのだ。

：

上鳴「午後は女子全員でチアやって応援合戦しなきゃいけないんだってよ!」

八百万「そんなこと、聞いていませんけど……?」

峰田「信じる信じないは勝手だけどよ、これは……相澤先生からの言伝だからな!」

：

ノエル「どーなってんだこれ。」

そこにチア服を着ていないノエルがやってくる。

八百万「騙しましたわね、上鳴さん! 峰田さん!」

麗日「ま、まあ息抜きくらいにはなるだろうし……」

蛙水「お茶子ちゃん、庇わなくていいのよ」

ちなみに、葉隠の「面白そうだし、衣装も勿体無いからみんなで踊ろうよ!」という鶴の一声で結局みんなチアリーディングをすることになった。上鳴と峰田は後で必ずシバく、と共通意識も持つて。

ノエル「これは一撃やらんといけんか。」

上鳴「…ん？天海がこっちにやって来たぞ？」

ノエル「おい、言い出しつぺはどっちだ。」

峰田「上鳴です。」

上鳴「はあっ!？」

ノエル「よし、峰田だな。」

峰田「なぜバレたあ!？」

《《Extension》》

峰田「えっちよっ」

《《Summon》》

ノエル「一撃だけにしてやるよ。」

エルゼ『やつちやえ日産!』

ノエル「《《ラファエルリベレイト》》。」

ノエルが出したのは火縄銃のような見た目をした赤と黒で出来た銃。

《《Extension》》

《《Macinus》》

ノエル「皆の分までぶっぱなす。」

「《《ハートバスターオルタ》》！」

峰田「ギヤアアアアア！」

峰田は消し飛ばした。

上鳴「峰田、良い奴だったっ…！」

第一回戦　くオーバースピードと宇宙の目く

レクリエーションも終わり、いよいよ本選の対戦カードが発表される。

途中、心操くんのチームに居た尾白くんとB組の庄田くんが辞退を宣言し、二棒空き、B組の鉄哲くんと霧隠くんが本選に出場する事になった。

エルゼ『…あの名前、もしかして。』

第一回試合

緑谷 対 心操

第二回試合

轟 対 瀬呂

第三回試合

上鳴 対 霧隠

第四回試合

飯田 対 天海

第五回試合

芦戸 対 青山

第六回試合

八百万 対 常闇

第七回試合

切島 対 鉄哲

第八回試合

爆豪 対 麗日

ノエル「ほえ、いきなり飯田くんとか。」

飯田「むっ、天海くんか。騎馬戦のリベンジだ！」

ノエル「上等、返り討ちにしてあげるよ。」

霧隠「…」

：

「ルールはさっき説明した通りよ！相手を降参させるか場外にさせるか、私達審判に続行不可能と判断させることで勝利となるわ！」

少しダイジエスト

第一回試合

勝者 緑谷

心操の洗脳を力技で解き、技ありの場外。

第二回試合

勝者 轟

瀬呂が最初テープを繰り出したが、轟の大氷壁によつて無に帰す。そのまま戦闘不能となる。

第三回試合

霧隠ランガ 対 上鳴電気

ミツド「それでは、始め！」

上鳴「いくぜえ！」バリバリ

霧隠「…」スツ

ノエル「っ!? あれって！」

エルゼ『まさかつ!』

『エイリアンウオッチ…!』

ノエル（確かエルゼの元いたY学園の生徒会長が使つてたつていうやつだよね!）

エルゼ『う、うん。なんで彼が…』

上鳴「120万ボルトオ！」ズドドド

霧隠「ふっ！」ブオン

ギイイン!

エイリアンウォッチから出るサークルバリアによつて上鳴の電撃はランガに届く事はなかった。

上鳴「うえ、うえい!？」

霧隠「威力は申し分ない、が！」ヒュン
ガシツ

霧隠「当たらなければどうということはないっ！」ブンツ

上鳴「ウエエエイ！」

ミッド「上鳴くん場外！勝者霧隠くん！」

「「わあああああ！」」

ノエル「すごい、あんな力が……」

エルゼ『：エイリアンウォッチは宇宙人の力を使ってる。だから道のパワーという意味ではあれくらいどうもいうことも無い、か。』

『というか私達次だけど行かなくていいの?』

ノエル「あっ」

マイク『さあ次は第四試合！全力フルスロットル！飯田天哉あ！バーサス!?!子猫達の飼い主！天海ノエルウ!』

誰が飼い主じゃ！

相澤『おい、天海が出てこないぞ。』

マイク『あら？おい天海く！出番だぞお!？』

ノエル「やべっ」バツ

観客席から跳ぶ。

スタツ

ノエル「いやはやすみません、出番忘れてました。」

マイク『oh！なんてかっけえ登場だあ!』

相澤『次からは入場口から来いよ。』

ノエル「すみません。」

飯田「天海くん、本気で行くぞ。」

ノエル「そのつもりで来なよ。」クイツ

ミッド「それでは第四試合、始め!」

キユイイ

飯田「悪いが最初から決めさせてもらう!」

ノエル「そう来ると思ってたよ飯田くん!」キイイ

飯田「レシプロバースト!」

ノエル「マゼラルアイ!」

飯田のレシピプロバーストは時間にしておよそ10秒、対してノエルのマゼラルアイはノエルの集中力が続くほど時間も伸びる。

ノエル（持つてくれよ私の集中力！）

飯田「うおおおお！」ヒュン

ノエル「はああああ！」

それは目で追う事が出来ない攻防だった。

攻める飯田。

対して守るノエル。

お互い一步も譲らない戦いが繰り広げられた。

時間にしておよそ10秒。

最後に勝ったのは…

飯田「くっ、エンストが…」プスプス

ノエル「はあっ、はあっ、耐えきった…」

飯田「これは、もう俺の負けだな。」

ミッド「飯田くん降参！勝者天海さん！」

飯田「強いな、天海くん。」

ノエル「あと少いで詰むところだったけどね。」

またダイジエスト

第五試合

勝者 芦戸

青山のベルトが溶かされ、芦戸の顎アッパーが決まりK.O。

第六試合

勝者 常闇

常闇の速攻に八百万が対応しきれずそのまま場外。

第七試合

引き分け

クロスカウンターにより同時に気絶。後々勝者を決める。

第八試合

勝者 爆豪

麗日が爆発で浮いた大小様々な石を爆豪に一気にぶつけるも、爆豪の本気の爆発で一掃。麗日がそのまま気絶し試合終了。

第七試合

勝者決定戦

勝者 切島

鉄哲の鉄分不足で力が弱まり、そのまま切島が押し切り勝利。

ノエル「次の相手は霧隠くんか…。」

エルゼ『ノエル、彼は最大限注意した方がいい。』

ノエル「当然。だってエイリアンウオッチも…。」

「変身出来るんだから。」

第二回戦　　くヒーロー対魔法少女く

二回戦第一試合

緑谷 対 轟

勝者 轟

氷ブツパと指破壊デコピンから始まったこの戦い、緑谷が轟の弱点を見抜き、轟の心の氷を溶かし、彼の闘志に火をつけた。

緑谷くんの全力のスマッシュと轟くんの炎と氷による大爆発が起き、煙が晴れ、立っていたのは轟くんだった。

そして、第二試合

マイク『さあさあ！修理も無事終わり試合を続けるぜえ!!第二試合はあ！未知の力の持ち主！B組霧隠ランガア！ヴァーサアス!?超スピード超パワーなんでもござれ！A組天海ノエルウ!』

相澤『天海はちゃんと入場口から来たな。』

エルゼ『そりゃ何回も観客席から行かないよ。』

ノエル「よろしくお願いします。」ペコリ

ランガ「こちらこそよろしく頼む。」スッ

ミッド「それでは、第二試合、開始！」

ランガ「天海さん、ひとつ提案がある。」

ノエル「?何かな？」

ランガ「君、姿を変える事が出来るだろうか？」

ノエル「:…なんで知ってるのかな。」

ランガ「実は私も姿を変えられる。」

エルゼ『やっぱりか。』

ランガ「お互い、その姿で全力でやらないか？」

エルゼ『ノエル、どうする?』

ノエル「そりゃあ決まってるでしょ。もちろん:…」

「本気でやっただげよ!」

ランガ「そうか、感謝する。」

ノエル「それじゃあ早速!」

「ミラクルプリズマー!」

侵略魔少女エルゼメキアの姿へとコスチュームチェンジする。

皆「:「おおー!?!」」

尾白「…あの姿は。」

緑谷「あの脳みそ敵と戦った時に出した変身だ！」

ノンノン、コスチュームチェンジさ！

ノエル「さあ、そちらもどうぞ？」

ランガ「ああ。」スッ

エルゼ『やっぱり本物だ。』

ランガはエイリアンウオッチの上部を開き、メダルを装填する。

ランガ「変身っ！」

《ALIEN》

上部を閉じる。

《MIST SHADOW》

ランガ「ふっ！」

球体を回す。

だんだんと姿が変わり、灰色がベースの身体になる。

ランガ「《ミストシャドウ》！」

皆「「おおー!!!」」

マイク『おいおいおい！二人とも変身しやがったぞ!?!』

ノエル「だーかーらー！こっちはコスチュームチェンジだつってんでしょ！」

マイク『ohソーリー！』

ランガ「では、行くぞ！」ダッ

ノエル「さあて、来い！」

：

エルゼ『いいノエル？そのエルゼメキアの姿は確かにコスチュームチェンジできるよ
うになったけどその姿は今の貴方だと5分が限界。それまでにケリをつけてね。』

ノエル「5分ももってくれるならいける！」

ランガ「はあっ！」

ランガがパンチを繰り出す。

ノエル「せいっ！」

ノエルが杖で応戦する。

両者弾き返される。

ランガ「くっ！」

ノエル「とりあえずは互角、かな。」

ランガ「まだまだいくぞ！」

ノエル「上等っ！」

ドガガガガガガ!

マイク『おおっ! すげえ攻防だなあ!』

相澤『目で追えんな。』

ノエル「強いね!」

ランガ「そちらも敵の襲撃を乗り越えただけはある!」

ガアン!

ランガ「だがこれならどうだ!」

《ALIEN》

《Command!》

ランガ「《ダークブーメラン》!」

シュババババ

無数の斬撃がノエルを襲う。

ノエル「くっ!」 キキキイン!

杖を回して斬撃を弾く。

しかし、それをすり抜け一つの斬撃がノエルに当たる。

ノエル「ぐっ!」

ズザザザ

ノエル「お返しっ！」

《《Extension》》

《《Summon》》

ノエル「ラファエルリベレイト！」

銃を乱射する。

ランガ「むっ！」

避けたり弾いたりするが、完全には防ぎきれず数発当たる。

ランガ「ぐおっ！」

ズザザザ

マイク『さあ、今のところは互角かあ？』

相澤『どちらが勝つかはまだ分からないな。』

ノエル「いくよっ！」

ノエルは杖と銃の二刀流でランガに仕掛ける。

エルゼ『ノエル！後三分！』

くっ、時間の流れは早いな！

そのまま決定打もなく必死の攻防が続き…

二人「はあっ、はあっ、…」

エルゼ『残り一分…、もう時間が』
決定打がないから均衡してるんだ。

ランガ「くっ…、そろそろ決める！」

《ALIEN》

《Command》

ランガ「はああああ！」

ランガの腕に巨大なエネルギーが集まる。

エルゼ『終わりにする気か。』

ノエル「応えないとね。」

《Extension》

ノエル「ふうー…！」

《Macinus》

ランガ「《スペースバスターアステール》！」

腕から放たれたそれはまるで流星。一直線にノエルに向かう。

ノエル「《ハートフルバスターシディア》！」

ノエルの目の前に目の形をした魔法陣が召喚され、中心にエネルギーが集まる。それは極太の光線となりぶつかる。

大爆発が起きる。

皆「「うわああああ！」」

ドガン！

マイク『くつそ見えねえ！どうなってんだ！』

相澤『同じかそれ以上の質量同士がぶつかったことによつて起きたんだな。』

煙が晴れる。

その場に残っていたのは、ノエルだった。

ミツド「勝者、天海さん！」

皆「「「わああああ!!!」」」

ノエル「霧隠くん、大丈夫？」

ランガ「ぐっ、ああ…。」

エルゼ『ノエル、お疲れ。』

ランガ「さすが」エルゼ」の力だな。」

二人『……はっ?』

エルゼ『いやいやいやいや! 待ってなんで私の事知ってるの!?!』

ノエル(そんなの私に聞かれても知らないよ!)

ランガ「君の中にいるのだろうか? エルゼメキア、いや、エルゼが。」

ノエル「なんでいるなんて分かったのよ…!」

ランガ「実は私の中にも同じようなものがあつてな。」

ノエル「お、同じ…?」

ランガ「ああ、”霧隠ラント”という名前に覚えはないか?」

エルゼ『なんでラントを知ってるの!?!』

ノエル「一応聞いた事は…!」

ランガ「私の中にラントがいるんだ。」

二人『ふえっ?』

ランガ「事実だ。」

なんとという事実。実はエルゼ以外にもY学園の世界から来ていたらしい。エルゼは泣いてた。どうやら特別な関係っぽい。良かったね、エルゼ。

そんなこんなで同じ境遇の友達が出来た。

霧隠ランガくんか……。不思議な人。

準決勝

く心の炎を燃やせく

第三試合

芦戸 対 常闇

勝者 常闇

ダークシヤドウによって近づけず、そのまま場外。

第四試合

爆豪 対 切島

勝者 爆豪

最初は爆破が効かずに苦戦した爆豪だが、連続爆破と一点集中により硬化の限界を超え勝利。

そしていよいよ準決勝

すっかり体力も回復したア！

マイク『さあさあ！準決勝を始めるぜえ!?第一試合はあ！コイツ大技多すぎね?ぶっぱなしガール!天海ノエル!ヴァーサアス!?氷と炎の温度格差が激しいぜ!轟焦凍お

！
』

誰がぶツッパガールやねん。

ミツド「それでは第一試合、始め！」

轟「っ！」パキパキ

ノエル「よっ！」ヒュン

指からビームを出して氷を砕く。

轟「くっ！」バキバキ

ん、威力上げてきたな。

エルゼ『ノエル、気をつけてよ。一回戦みたいなのやられたら流石に無理だよ？』

大丈夫だよ。

バキイン！

ノエル「全部砕けばいいんだし。」ヒイイン

轟「これならどうだ！」ジャリリリリリン！

エルゼ『っ！一回戦より規模は小さいけどくる！』

ノエル「火力ならこつちも負けてないよ！ハートフルティアーズ！」ドツ！

氷を砕き、溶かす。

轟「ふうー…」カタカタ

ノエル「轟くん、震えてきてるよ？」

轟「くっそ……」

ノエル「……まだ迷ってるの？左腕の事。」

轟「っ！」

ノエル「別に私がとやかく言うことではないけど、いい加減大人になりな？親の事でずっとワガママ貫いてるのもいいけど、いつかそれで取り返しをつかない失敗をするよ？」

轟「うるせえっ、お前に何が分かる……！」

ノエル「じゃあ君はなんの為にヒーロー目指してんの？」

轟「っ……」

ノエル「皆何かを守りたくて、目指したいものがあってヒーロー目指してるの！でも君は私怨の為にヒーローを目指してるの!?君だつてあるでしょ！ヒーローを目指したきつかけが！」

轟「……！」

……

『いいのよ、おまえは——』

『でも、ヒーローにはなりたくないでしょう？いいのよ、おまえは——』

『でも、ヒーローにはなりたくないでしょう？ いいのよ、おまえは——強く想う将来ビジョンがあるなら——』

・・・

エン「立てエ!!焦凍オオ!!」

クソ親父の声が聞こえる、観客席から叫んでんのか…!

うるせえよ…!言われなくても立つってんだ…:俺は俺の力で立ち上がれる…!

『血に囚われることなんてない——』

『——なりたい自分に、なっていないんだよ』

忘れていた、お母さんの言葉が甦った。

瞬間、頭の中が真っ白になり、俺の左側から炎が吹き出す。燃え盛る炎の熱で、身体の震えが止まった。

エルゼ『完全に過去から抜け出したね。』

ノエル「うん、ここからだよ。」

轟「ははっ…。お前馬鹿かよ、敵に塩を送るなんて。」

ノエル「まあね。でも、いけない憑き物は取れたでしょ?」

轟「ああ…。ここからは、”本気”でいくぞ?」

ノエル「…上等！」

エルゼ『ノエル！こつちもいくよ！』

二人『ミラクルプリズマー!!』

侵略魔少女エルゼメキアにチエンジする。

マイク『さあさあ盛り上がってきたぜえ!?本気と本気がぶつかるぜえ!実質最終決戦じゃね?』

相澤『まだ準決だぞ。』

轟「いくぞっ!」ボウツ

炎が飛んでくる。

ノエル「ほっ!」ガガガ

魔法陣で防ぐ。

ノエル「いくよっ!」ヒュン

轟に向かつて飛んでいく。

轟「させるかっ!」パキパキ

特大の氷を出して迎えうつ。

氷に包まれる。

マイク『おおっとお？天海が氷の中に突っ込んだぞお!?大丈夫かあ?』

轟「こんなところでお前は終わらないだろ…、天海っ!」

ノエル「…ハートフルティアーズ!」ドゴオン!

その瞬間、ひとつのビームが氷の中から出て、氷をぶった斬った。

ノエル「あー寒っ」

マイク『氷から天海が出てきたア!まだまだ終わらねえぜえ!』

ノエル「()(?) () () プルプルプルプルプル」

エルゼ『もう少しで氷漬けたっ!』

轟「流石だな、天海!」

ノエル「轟くんこそ、氷を炎でデメリツトなしに出来るからおもいつきりきてるじゃん。」

轟「ああ、だが久しく使ってこなかった。だからまだ小さい炎だがな。」

ノエル「まあ十分脅威だな。」

エルゼ『ノエル、そろそろ決めよう。』

そうだね、エルゼ！

ノエル「悪いけど、勝つのは私だよ。」キィイ

轟「いや、俺だ…」パキパキボオオ

轟「膨冷熱波！」

ノエル「ラブリープリチー玉っ！」

二つの攻撃が衝突し、大爆発が起こる。

マイク『うおいおいおい！またかよお！』

煙が晴れる。

ノエル「はあっ、はあっ…」

轟「くっ…」

ミツド「轟くん場外！勝者、天海さん！」

皆「「「うおおおおお!!」」」

マイク『壮絶な戦いを経て、決勝戦の切符を勝ち取ったのは、天海ノエルウ!』

ノエル「轟くんっ！大丈夫？」

轟「ああ…、流石だな。」

ノエル「轟くんだって凄いよ。」

轟「ふっ…、次は負けねえ。」

ノエル「何時でも待ってるよ、轟くん。」

エルゼ『これにて一件落着だあね。』

いやまだ決勝戦あるから。